

# 性格と身体活動への興味に関する研究

——本学々生について——

鎌 田 英 爾

## 〔I〕 は じ め に

従来、体育・スポーツ心理学の分野において、性格に関係した研究、中でも Y-G 性格検査による研究は多い。それらの多くは、スポーツマンと非スポーツマン又は、スポーツ種目毎の性格特性の比較により、いわゆるスポーツマン的性格を明確にしようとするものである。

しかしこれまでの研究では、いわゆるスポーツマン的性格が、スポーツを継続して行なうことにより形成されていくものか、あるいはスポーツを継続している間に、スポーツマン的性格の持主が残り、そうでない者が淘汰されていった事によるものなのかという問題（習得と生得）は必ずしも明確にされているとは云えない。

又興味とは、好嫌の感情を伴った心理的な態度であり、興味は活動を推進させる動機づけとしての側面を持っている。従って身体活動への興味と性格の間には、深い関係があるものと推察出来る。

そこで本研究では、前回<sup>5)</sup>（昭和42年）に引続いて、Y-G 性格検査と、クラブ活動の状況調査をもとに、本学々生の性格を調査・比較し、合せて身体活動に対する興味、好んでいる種目、又経験の有無との比較を行ない、性格の習得・生得の問題究明の手がかりを得ると共に、本学々生の性格、身体活動への興味その他の特徴と傾向を把握し、保健体育教育の指導資料の一つとして、参考にしようとするものである。

## 〔II〕 研究の方法と内容

### (1) 対象

本学々生 1 年、及び 2 年、3 年、4 年、

### (2) 調査期間

昭和53年 4 月～55年 6 月

### (3) 調査人員

698 名（詳細は第十表参照）

尚調査は、1 年対象の保健体育講義の時間を主として利用した為、2 年以上の再履  
習者が含まれている。調査の対象となった人数は少いが、比較する意味で資料に加え  
た。

#### (4) 調査内容

a) Yatabe-Guilford 性格検査（以下 Y-G と略す）

b) 中学・高校・大学におけるクラブ活動の経験年数とクラブ名、

c) 身体活動に関する興味調査

イ) 一般的身体活動に対する興味について、

種目とは関係なく、身体を活動させることに対する好悪の度合いを大好きから大  
嫌いまでの 7 段階に分けて評価させた。

ロ) 運動種目のうち、比較的ポピュラーな運動と思われる 51 種目のそれぞれにつ  
いて、今迄の経験の有無と活動への興味。

経験したことのある種目については、その経験にもとづいて、又経験のない種目  
については、自分の見聞した知識等により判断した好悪の評価を、やはり 7 段階に  
分けて記入させた。

### 〔Ⅲ〕 結 果 の 処 理

#### (Ⅲ-1) Y-G 性格検査

(1) このテスト法は、スポーツマンの性格を扱った研究には、これまで最も多く使わ  
れている検査法の一つである。

この性格検査は、J.P. Guilford（米）の考案によるものを、京都大の矢田部・辻  
岡氏等によってテストの標準化、妥当化、実用化がなされたものである。

本検査法は 120 の質問からなり、被験者の回答は、12 の尺度別に 0 ～ 20 点の粗点が

小 ← 粗点 → 大

情緒安定性因子	抑うつ性小	D	抑うつ性大	情緒不安定性因子
	気分の変化(回帰性)小	C	気分の変化(回帰性)大	
	劣等感小	I	劣等感大	
	神経質でない	N	神経質	
社会的適応性因子	客観的	O	主観的	社会的不適応性因子
	協調的	Co	非協調的	
非活動性因子	攻撃的でない	Ag	攻撃的(あいそが悪い)	活動性因子
非衝動性因子	非活動的	G	活動的	
内省性因子	のんきでない	R	のんきさ	
非主導性因子 (服従性)	思考的内向	T	思考的外向	非内省性外向
	服従的	A	支配的	
	社会的内向	S	社会的外向	
				主導性因子

計算され、プロフィールを作成するようになっている。又各尺度は相互に関係の深いものが、隣り合う様に配列されており、プロフィールを見て、被験者の性格構造がすぐ判定できるように工夫されている。

(2) 12の尺度及び相互の関係は p. 260 の通りである<sup>1)</sup>。

(3) 12尺度のうち、「上の6尺度」は、情緒的色彩を持ち、「下の6尺度」は右側が高次の外向性を示している。又プロフィール全体の傾向から類型を判定する。即ち①上6尺度の得点、②下6尺度の得点、③中央部分の得点の組合せにより、A, B, C, D, Eの5類型及び、典型、準型、亜型を判定する。

Y-G検査プロフィールの五典型および類型<sup>2), 3)</sup>

	英 語 名	形による名称	因 子		
			情緒安定性 DCIN	社会適応性 OCaAg	向 性 GRTAS
A 型	Average Type	平 均 型	平 均	平 均	平 均
B 型	Black List Type	右 寄 り 型	不 安 定	不 適 応	外 向
C 型	Calm Type	左 寄 り 型	安 定	適 応	内 向
D 型	Director Type	右下がり型	安 定	適応又は平均	外 向
E 型	Eccentric Type	左下がり型	不 安 定	不適応又は平均	内 向

	平 均 型	右 寄 り 型	左 寄 り 型	右下がり型	左下がり型	疑 問 型
典 型	A 型	B 型	C 型	D 型	E 型	F 型
準 型	A' 型	B' 型	C 型	D' 型	E' 型	
亜 型	A'' 型	AB 型	AC 型	AD 型	AE 型	
総 称	A 類	B 類	C 類	D 類	E 類	

(4) このY-G性格検査は、種々の検査法の中でも集団検査が可能であること、単一な性格特性（例えば向性検査など）ではなく、複次元の特性を見出すことが出来ること、信頼性、妥当性の高いこと、大学生についての資料が発表されていることなどの点で、他の検査法に比較して優れており、本研究に使用した理由もここにある。

(5) プロフィール5類型と性格特徴<sup>4)</sup>

#### A型（平均型）Average Type（ありふれ型）

とりたてて特徴のある傾向を示さない平凡な人。知能が低い場合は、無気力で受動的な性格という事にもなる。

#### B型（右寄り型）不安定不適応積極型 Black Type（暴力型）

不均衡な性格が、直接表に現れ易いタイプで、反社会的行動に出易い。悪環境や低い知能の時は、非行に向い易く又犯罪者に多いタイプであり、その早期発見にも役立つと考えられる。学校・職場での問題者、トラブルメーカー、不適応者などがこの

タイプに属する。

C型（左寄り型）安定適応消極型 Calm Type（鎮静型）

良くいえば安定して落ち着いたタイプであるが、その代り積極性に乏しく、犯罪とは縁がうすく、出納係、オートメーション工場の工員などには最適なタイプである。

D型（右下り型）安定積極型 Director Type（管理者型）

性格の良い面が外に現われ易いタイプで、一般に管理者として成功している人、下級・中級職員としても成績良好である。

但し質問紙法の弱点である、反応歪曲の影響はまぬがれないが、妥当性を検討してみると、この点を含みながらも、やはりD型は良好であることが証明されている。

E型（左下り型）不安定不適応消極型 Eccentric Type（変り者型、ノイローゼ型）

D型とは正反対で、性格の悪い面が内攻するタイプである。どちらかというとなイローゼ型、変り者型で、無気力、受動的であり、自己の弱さの為にノイローゼや問題行動を生じ易いが、健康な範囲内では、エンジニアタイプともいえる。

以上のプロフィールは、5種類の典型的なタイプに対するもので、現実にはこの他に準型、亜型などにも分類される。

〈Ⅲ-2〉 身体活動に対する興味調査

- 1) 7段階の評価には夫々次の得点を与えた。即ち、大好き（7点）、好き（6点）、どちらかという好き（5点）、どちらでもない（4点）、どちらかという嫌い（3点）、嫌い（2点）、大嫌い（1点）とした。
- 2) 経験の有無により興味得点に差があることを考え、経験したことのある種目とない種目を分けて興味得点を算出した。
- 3) 調査の対象としたのは次の51種目である。バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球、テニス（硬式・軟式）、野球（左同）、ソフトボール、サッカー、ラグビー、アメリカンフットボール、ハンドボール、ゴルフ、陸上競技、水泳（含海水浴）、レスリング、フェンシング、体操、アーチェリー、ヨット、ボート、ボートリング、アイススケート、アイスホッケー、ローラスケート、フィールドホッケー、スキー、水上スキー、重量挙げ、ボディビル、ボクシング、グライダー、トランポリン、登山、乗馬、射撃、剣道、柔道、相撲、空手、弓道、合気道、拳法、サーフィン、スキndaイビング、ハイキング、キャンプ、フィールド・アスレティック、オリエンテーリング、ダンス（社交・フォーク）、マラソン（含ジョギング）なわとび。



(Ⅲ-3) グループニング

学科別および、クラブ活動の経験の有然、内容その学年などを調査し次の様に分類した。

- (1) 学科学系別分類 (略称)
- |         |     |
|---------|-----|
| 機械系     | 機械系 |
| 機械工学科   | 機械科 |
| 化学系     | 化学系 |
| 工業化学科   | 化学科 |
| 化学工学科   | 化工科 |
| 電気系     | 電気系 |
| 電気工学科   | 電気科 |
| 電子工学コース | 電子科 |
| 情報工学コース | 情報科 |
| 建築系     | 建築系 |
| 建築学科    | 建築科 |
- (2) 経験別分類
- |           |     |
|-----------|-----|
| クラブ活動無経験者 | 無所属 |
| 文化部活動経験者  | 文化部 |
| 運動部活動経験者  | 運動部 |
- (3) 運動部経験者の分類
- |                 |      |
|-----------------|------|
| 中学時代のみ経験        | 運(1) |
| 中学運動部、高校文化部を経験  | 運(2) |
| 中学・高校時代に経験      | 運(3) |
| 高校・大学又は中・高・大で経験 | 運(4) |
| 高校時代のみ経験        | 運(5) |

(Ⅲ-4) 辻岡平均との比較について、

本研究は、今回も考察の1手段として、辻岡平均との比較を中心にしている。その理由としては、Y-Gのプロフィールでは、50パーセンタイルの位置と、尺度粗点の中央値(10点)が一致していない為に、粗点で比較する場合は、相対的な比較しかできない事になる。辻岡によって、全国の大学生6,110名(内男子4,136名)について、調査された結果を標準点として比較し、グラフに表わせれば、類型別プロフィールなど

が一目で判別できるという利点がある為である。

#### 〔IV〕 本学平均と辻岡平均との比較

##### (1) Y-G尺度別（第一表、第十四表、第1図）

本学1年の平均と辻岡平均との間には、Ag（攻撃性）、G（活動性）で有意差が認められなかった他は、全て0.5%以下で有意差が認められた。その中でも、D（柳うつ性小）、C（回帰性小）、R（のんきさ）、T（思考的外向）、S（社会的外向）の尺度については、辻岡平均より、1.5～2.6点の差で、よい方向（D型）への差が顕著に見られた。

全体的にはG、O（主観性）の2尺度については有意差が認められないまでも、良い方向への差が見られるので、Agをのぞいて（有意差はないが）すべて辻岡平均より、よい方向（D型より）への片寄りが見られる。

##### (2) 因子グループ別（第十二表）

表によると、AgG因子（活動性因子）が殆んど変らない他は、0.54～1.84の差で辻岡平均より良い方向への差が認められる。

##### (3) 「上6尺度」と「下6尺度」の差（第十一表、第1図）

上6尺度（DCINOC<sub>0</sub>）と、下6尺度（Ag GRTAS）の差を見ると、得点で16.32、平均で2.72あり、辻岡平均のそれぞれ2.24、0.37に較べても、非常に大きな差といえよう。これは、本学の学生は全体として、辻岡平均より、上6尺度の情緒性二次因子は安定適応の側に、下6尺度の向性二次因子も活動・外向の側に傾いているという事ができる。

##### (4) 前回調査との比較<sup>5)</sup>（第二十二表、第4図、第5図）

表によって分るように、I, N, O, Aの尺度を除いては、有意差が認められ、因子グループ別でもAgG因子を除いて、全てD型寄りの良い方向へのまとまりが見られる

##### (5) まとめ

辻岡氏による、4,136人の大学生によって標準化された平均得点に比較して、本学々生は、D型（安定、適応、積極型）に寄っていると見られる。又前回（42年）調査の結果と比較しても、8つの尺度、5つの因子グループで、D型への片寄りが見られた。中でもRT因子（非内省性因子）が、大きく右寄り（+2.46）なのが目立っている。又DCIN因子（情緒安定性因子）のまとまりは重要で、前回調査と同様に、よい方向への性格を示しているといってもよいと思う。

## 〔V〕 経験グループによる比較

### (V-1) グループ別比較

#### (1) 尺度別比較（第三表、第五表、第十四表、第2図、第4図、第5図）

a) 辻岡平均に比べ、無所属では D, Co, R, T の尺度で良い方向に、G 尺度では逆の方向に有意差が見られ、文化部では D, C, T の尺度で良い方向に、Ag 尺度では逆の方向に有意差が見られる。これを合せた無と文の合計では、D, C, Co, R, T の尺度で良い方向に、Ag, G の尺度で逆の方向に有意差が認められる。運動部計では、Ag の尺度を除けば、他は全て1%以下の差で有意である。

b) 本学の合計との比較では、無と文の合計では、Ag が良い方向の他は、8 尺度について逆の方向の有意差が見られ、運動部計では、G 尺度で良い方向に有意差が認められたにすぎない。

c) これを前回の調査と比較すると、無と文の合計では R, T の尺度で良い方向に、N, Ag, G 尺度で逆の方向に有意である。又運動部計では、D, C, R, T, S で良い方向に、Ag, G で逆の方向に有意差が見られる。

#### (2) 因子グループ別比較（第十二表、第2図）

無所属では、DCIN 因子で情緒安定の方に、RT 因子が非内省性因子の方に良いまとまりが見られたのみで、他は逆方向へのまとまりが見られるか又はまとまりが見られない。文化部では Ag G 因子が非活動性を示した他は各因子グループのいずれも良い方向へのまとまりが見られる。又無・文の合計は文化部と似かよった傾向であり、運動部計では全て良い方向（D型）にまとまっている。

#### (3) 「上6尺度」と「下6尺度」の差の比較（第十一表）

いずれのグループにおいても、D型寄りの傾向が見られる。特に運動部合計では 19.12（平均3.19）と大差を示している。

#### (4) まとめ、

a) 辻岡平均との比較では、無所属、文化部共、D, C, R, T 尺度で、D型寄りが見られ、DCIN（情緒安定性）、RT（非内省性）の因子グループにも同じ傾向が見られる。又運動部計については、殆んど全ての点で明らかにD型寄りであり、これは前回の調査と比較しても変わらない。無所属、文化部については、工科系学生の特色ともいえる、情緒安定性（おとなしい）、のんきさなどを持っている。更に社会的適応性があり、非活動的な傾向が見られる。

b) しかし上下各6尺度の差で見ると、辻岡平均に比較してかなりD型寄りである事

が分るが、その中でも無・文・運の順で、よりD型に傾いており、うなずける結果といえよう。但し、DCIN 因子と共に重視されるAS 因子（主導性因子）については、無所属だけにまとまりが見られない。

c) 前回調査との比較では、無・文計で5つの尺度、運動部計では7つの尺度で有意差が見られ、かなり大きな差があるといえるが、無・文計はどちらかという、E型寄りに、運動部計ではD型寄りといえる。

しかし前述したように、辻岡の平均と比較してみると、いずれもD型寄りと見ることができ、大枠では前回、今回共に同じ傾向にあるといえる。

#### (V-2) 経験グループ間の比較（第十六表、第4図）

##### (1) 無所属に対する文化部

T（思考的外向性）、A（支配性）の尺度で、無所属の方がD型寄りの方向に有意差が認められただけで、その他の尺度には、はっきりした差は見られなかった。

##### (2) 運動部に対する無所属

G（一般的活動性）、S（社会的外向）、Aの尺度で、運動部の方が、D型の方向に有意差が見られた。

##### (3) 運動部に対する文化部

I（劣等感）、N（神経質）、G, R（攻撃性—のんきさ）、T, Sの尺度で運動部の方がD型の方向に有意であった。

##### (4) 運動部に対する無・文計

C, Co, T, D の尺度以外は全て有意な差が認められた。このことは2つの集団が明らかに異質であることを示している。

##### (5) まとめ

無所属と文化部はほぼ類似した性格の傾向を持つグループといえる。これに対して、運動部は、有意差から見ても、上下6尺度の差から見ても（1.28対3.19）明らかに異質なグループと見ることができる。

前回の調査では運動部と無所属の間に文化部が位置していたが、今回も同様の順位ではあるが、無所属と文化部の間の差は殆んど見られなかった。

#### (V-3) 運動部の経験差による比較

##### (1) 尺度別比較（第三表、第五表、第十四表、第十五表、第2図、第6図）

a) 辻岡平均に比較すると、運動部(5)（高校で経験）を除けば、他の4グループは総

じてD型寄りという事ができる。

特に運動部(3) (中学・高校で経験)は全ての尺度で良い方向に有意差が見られ、ついで、運動部(4) (中・高・大、高・大で経験)は7尺度がD型寄りであった。運動部(1) (中学で経験)では7尺度がD型寄りであったが、I (劣等感)だけは、E型寄りの方向に有意差が認められた。又運動部(2) (中学で運動部、高校で文化部を経験)では5尺度がD型寄りであるが、運動部(5)では、差が認められなかった。

b) これを今回の本学平均と較べると、更にはっきりした傾向が見られる。即ち、運動部(1),(2)では、殆んど有意差が見られず、運動部(3),(4)では、夫々9尺度、5尺度についてD型寄りに差が見られ、運動部(5)では、4尺度で逆方向のE型寄りへの差となっている。従って5つのグループの内、もっとも運動部らしい性格の傾向を示しているのは、(3)で、以下(4),(1),(2),(5)の順となる。

## (2) 因子グループ別比較 (第十二表)

a) 辻岡平均に較べて、D型寄りの方向に結合が見られるのは、DCIN (情緒安定性)では運動部(2),(3),(4)、O Co Ag (社会的適応性)では運動部(1)、Ag G (活動性)では運動部(3),(4)、GR (衝動性)では、運動部(3),(4)、RT (非内省性)は全てのグループに、AS (主導性)では、運動部(1),(2),(3),(4)に夫々見られる。反対にE型寄りに結合が見られるのは、運動部(5)の Ag G、(非活動性)だけである。

b) 本学の平均と較べてD型寄りの因子グループは、DCINでは運動部(1),(3)、Ag G、GR および AS では運動部(3),(4)、RT では運動部(3)に見られ、反対のE型寄り結合は DCIN、RT および AS では(2),(5)、O Co Ag では(2)、Ag Gでは(1),(5)、GR では(1),(2),(5)に見られる。

## (3) 「上6尺度」と「下6尺度」の差の比較 (第十一表)

運動部(4),(3),(1)の順に差が大きい、(2)は本学平均以下である。しかしいずれも辻岡平均よりは差が大きい。但し運動部(5)だけは全く逆で、E型寄りである。

## (4) まとめ

a) 運(1)では、I (劣等感)だけ強く現われているが、他は辻岡平均よりはD型寄りで、本学平均に近い。運(2)は辻岡平均よりD型寄りではあるが、本学平均に較べるとわずかではあるがE型寄りであり、運(5)は、はっきりとE型寄りである。運(3)はいずれと較べてもD型寄りだが、運(4)は差がはげしくはっきりしない。

b) 運(1)の劣等感(I)については、前回には見られなかった結果であるが、中学時代だけで身体活動を中止してしまったという事は、興味の方向の変化も考えられるが、身体的な運動能力などの点で、劣等感を感じる理由が潜在しているとも考えられる。

又48年（小・中学校は44年）より発足した、いわゆる「クラブ活動」の影響で、従来は運動部所属には含まれなかった階層（性格）の者が入りこんで来た為に運動部の質やグループの性格が変化してきている事が充分に考えられる。

今迄の比較考察、前回調査との比較から推察して、運(1), (2), (5)、の中に上記の様な者がかかり含まれている為に、グループの性格特徴が変化しているものと考えられる。

c) 運動部(5)（高校のみ運動経験あり）は、人数が少ないのではっきりしないが、この結果から見る限り、運動部というよりは無所属グループに非常に近い性格といえる。これは、前述の通称「クラブ活動」の為に、スポーツを志向しない者、本来は無所属に属すべき者が多く含まれているのではないかと考えられる。

又当然の事ながら、運動部(2)は、運動部よりは文化部に近い性格傾向といえることができる。

## 〔VI〕 学科・学系別比較

### (1) 尺度別比較（第一表、第二表、第四表、第六表、第1図）

a) 学系別では、辻岡平均よりD型寄りの尺度が多いが、その中でE型寄りの尺度をあげれば、機械系、化学系にはなく、電気系では O, Ag, G, 建築系では N, O, Ag, G などである。

本学平均との比較では、機械系は調査人数の比率が多い為に平均に近く、化学系では全尺度がD型寄り、電気系では全尺度がE型寄り、建築系では Co, R を除いてE型寄りとなっている。又前回調査と著しく異っているのは、建築系だけであるが、これは調査人数が少い事も原因の一つと考えられる。

b) 学科別では、（機械、建築は学系と同じ）化学科、化工科は化学系と殆んど変わらず、電気科は機械系とほぼ同じD型寄りを示している。電子科では I, N, O, Ag, G が、情報科では N, O, G, A がそれぞれE型寄りになっている。これは本学平均と比較しても、ほぼ同様に、電子科、情報科は、全尺度がE型寄りになっている。

### (2) 因子グループ別比較（第十二表）

辻岡平均に対してD型寄りにまとまりを見せているのは、機械系（科）では Ag G をのぞく全てが、建築系（科）では、RT と AS が、化学系では全ての尺度で、電気系では、DCIN, RT などである。逆にE型寄りを示す因子グループは、建築系と電気系の Ag G だけである。

電子科、情報科、建築科の DCIN（情緒安定性因子）、及び電子科の AS（主導性因子）にはまとまりが見られない。

(3) 「上尺6度」と「下尺6度」の差の比較（第十一表）

全体として辻岡平均よりはD型寄りであるが、電子科、情報科の順にD型への寄りが他の学科に較べて少なく、有意な差とはいえない。

(4) まとめ

辻岡平均と比較して、学系では建築系、学科では電子科、情報科において部分的にE型寄りを示す尺度、因子グループが見られ、本学平均との比較では、上記の他に更に電気系がE型寄りを示している。

又前回の調査と比較しても、同様の傾向を示している。これは調査数の違いだけでは、片付けられない差ということがいえる。その原因としては、この十数年の間に、学科としての学生の性格に変化があったのか、あるいは他に原因があるのかはこの資料からははっきりしない。今後更に検討していく必要がある。

〔VII〕 類型別による比較

(1) 経験グループ別比較（第八表、第九表）

a) 合計（1年）によると、D類が最も多く、次いでA類が多い。小項目別に見ると、D', D, A'', 型の順に多いことが見られる。

又前回の調査と比較すると、今回はA, B類が減少し、代ってD, E類の増加が目につく。典型別では、準型が最も多く、亜型・典型と続いているが、大きな差は見られない。

b) グループ別では、各グループ共に同じような傾向で、D類、A類が多く、D類の方がA類より多いか又は同じ位見られる。

無所属と文化部の間では、C類が文化部に多く見られ、小項目別では、無所属にA', AD, E' 型が多く、一方の文化部にはAC型が多く見られるが、調査数が少ないので、はっきりした事は云えない。

c) 無・文計と運動部計の間では、後者の方にD類が多く、前者にはA類、E類が、やや多く見られる。又小項目別では、前者にA', AC, E型が多く、後者にはABD型が多く見られる。

d) 運動部のグループ別では、運(3), (4)にC類が少なく、D類が多い。運(2), (5)ではE類の多い点が目立つ。運(1)は平均的である。

又典型別では、運(3), (4)に典型が多く、亜型が少なく、運(5)には亜型が多く見られる。

(2) 学系、学科別比較（第七表、第八表、第11図）

a) 全体を通じて見ると、機械科はA類が多く、E類が少ない。化学科はA類が多くE類が少ない。化工科はA, D類が多くB類が少ない。電気科はB類が多くE類が少

ない。電子科はC類が多くD類が少ない。情報科ではE類が多く、A、B類が少ない。又建築科ではA類が少ない。

b) 前回の調査では、A類、D類の順に多かったが、今回は逆になっている。

(3) まとめ

a) 類型別の全体を通じて、大きな変化は見られないが、前回の調査と比較すると、合計ではA類とD類の順位が逆転していること、今回はE類が多くなり、B類が減少していることが目立っている。

又運動部では、(2)、(5)にE類が多く見られ、尺度別、因子グループ別の所でも見られたように、他の運動部グループとは異質なグループのようである。

b) 高校だけで運動部活動(5)、又は中学で運動部、高校で文化部活動(2)というグループは、本当にスポーツ活動を好んでいるグループとは云えないのではないと思われる。その理由として中学時代だけで運動部をやめ高校では文化部に入るという事が、その現われといえるし、高校でスポーツを行う者の多くは、例え種目は異っていても、すでに中学時代から、何らかのスポーツ活動に入っているのが一般的なケースといえるからである。

## 〔Ⅷ〕 2年以上のY-Gと1年のY-Gとの比較

(1) はじめにも述べたように、ここにとり上げた2年生以上のデータは、保健体育講義の再履習者に対して、同時に調査したものである。従って、一般的な集団とは、質を異にしたグループと推察される。ここでは、1年と対比しながら、同時に再履習者としての性格特性が見られるものなのかどうかについて、検討したものである。但し3年4年については、調査数が少ないので、はっきりした結果は得られないことを、あらかじめ断っておきたい。

(2) Y-G尺度について(第二表、第四表、第3図)

a) 2年について辻岡平均と比較すると、D型寄りの尺度およびプロフィールを示し、何ら変化は認められないが、本学の1年合計との比較では、抑うつ性が大きく(D)、攻撃的であいそが悪く(Ag)、思考的にやや内向・内省的(T)な所が見られ、その他の尺度には違いが見られない。

b) 3年については、辻岡平均に較べて、気分の変化(回帰性)が大きく(C)、神経質で(N)、主観的(O)な所が見られ、本学1年との比較では、完全に右寄り型(B型)の傾向を示しているといえる。

c) 4年については、辻岡平均に対しては、ほぼ右下り型(D型)であるが、主観的



(O)で、支配的(A)な所が見られる。本学の1年に対しては、左下り型(E型)の傾向を示しているといえそうである。

d) 2年以上を合計したものでは、辻岡平均に対してはD型寄りを示すが、本学1年に対しては、抑うつ性が大きく(D)、気分の変化が大きく(C)、主観的で(O)、非協調的(Co)、思考的に内向(T)な所が見られ、情緒的には不安定、社会的にはやや不適応、向性は1年と同程度かやや内向的であるといえる。

(3) 類型別プロフィールについて(第八表)

2年と1年を比較すると、A類がやや多い他は変化が見られない。

3年については、B類(情緒不安定、社会不適応、外向)が圧倒的に多く(36%)、前項の結果とも一致している。

4年については、人数が少い為に何ともいえないが、データの上では、C類(情緒安定、社会適応、内向)が多く見られる。

2年以上を合計したものでは、2年の人数が多い為に、2年の結果と殆んど変わらず、1年の合計とも似た傾向の結果が見られる。

(4) まとめ

a) 2年については、辻岡平均との比較では、良い傾向を示すが、本学1年との比較では、E型(情緒不安定、やや社会不適応、やや内向的)の傾向を示し、情緒的にやや不安定な所が見られる他は、あまり問題がないといえる。

b) 3年については、辻岡平均に対しては、悪い方向への尺度がいくつか見られ、1年との比較ではB型(情緒不安定、社会不適応、外向)の傾向が見られる。

c) 4年については、辻岡平均に較べて、悪い方向への尺度がいくつか見られ、1年との比較ではC型(情緒安定、社会適応、内向)又はE型(左下り型)と見ることができる。

d) 2年以上の合計としては、運動部経験者が73%で、1年の76%と殆んど変わらない。そして現在も所属して活動している者が多いにもかかわらず、性格的には1年の無所属、又は文化部と似た傾向を示しており、2年より3年、3年より4年と進むに従って、情緒的には不安定で、社会的適応性では不適応又は平均的、内向的傾向を示していると見られ(E型)、確定的とはいえないが、再履習者としての性格傾向の一面を見ることができたと思われる。

[IX] 身体活動に対する興味得点の比較

(IX-1) 一般的身体活動に対する興味得点(第十七表、第十八表)

個々の種目にはこだわらず、一般的な身体活動についての興味の程度を、7段階評価した結果は、次の通りである。

(1) 経験別比較

- a) 予想通り運動部計の興味得点 がもっとも高く (5.93)、無所属 (5.51)、文化部 (5.04)の順であった。しかし無所属より文化部の得点が低いのは、文化部に所属している事が、その反動として、身体活動への興味が相対的に低くなるとも考えられる。
- b) 運動部の中では(3)と(4)が6点を越しており、(4)は6.36と最も高い。これに対して、(2),(5)は低く、無所属の得点と変らない。これはY-Gの結果とも一致している。
- c) 1年合計 (5.76) より高得点だったのは、(1),(3),(4)で、その他は低かった。
- d) 西田らが調査した、大学女子 (1, 2年)<sup>9)</sup> と比較すると、男子と女子の違いはあるが、平均で0.59の差があり、5点 (どちらかというとき好き) 以上の回答をした者は、本学の90.8%に対して70%あった。

(2) 学科別比較

- a) 1年合計より高い興味得点は、機械科、電気科、建築科に見られる。反対に低い得点は電子科に見られ、これは無・文合計の得点に匹敵するものである。又建築科の得点は6.00で、これは運動部(3)に相当する高い得点である。
- b) 以上の結果から、一般的な身体活動への興味は、建築科、機械科に強く表われており、学科 (系) の特徴といえるかも知れない。

(IX-2) 全種目についての興味得点 (第十三表、第8図)

前項とは別個に個々の51種目について、種目毎に興味の程度を7段階に記入させた結果の平均得点は次の通りである。

(1) 経験別比較

- a) 漠然と身体活動に対する興味として調査した場合は、個々の具体的な種目の、活動への興味が調査した場合よりも、高い得点になるのは、興味が行動に対する不確定性を特徴としているにもかかわらず、特定の認知的指向性をひきおこし、具体的な目標にむかった行動をおこさせることから、調査の方法によって、具体的な身体活動経験などの影響を受けるためと推察される<sup>9)</sup>。この点については両者間の検定によっても明らかな有意差が見られる。
- b) 得点は運・無・文の順に高く、前述の一般的身体活動の場合と同じであった。  
又運動部の中では、(4)だけが5点を上廻っており、(2),(5)は他の結果と同様に、ここでも得点が低く、無所属に近い。

c) 1年合計(4.69)より高い得点は、運動部の(1),(3),(4)だけでその他は低かった。  
(2) 興味得点の度数分布による出現率を見ても、運動部計が、最も得点の高い方に片寄っている事が見られる。

又無・文計(4.48)と、運動部計(4.75)の差は0.27は、0.1%以下の差で有意である。

さらに無・文計で得点が3点以下は1.4%、4点以下は17.4%であるのに対し、運動部計では、3点以下が0.5%、4点以下が6.4%と非常に少なく、その差は大きい。

(3) 西田が調査した、関東地方の大学生男子(2年)の結果<sup>7)</sup>と比較してみると、本学の文化部だけが、わずかに高い得点であった。

合計では0.13の差(0.1%で有意差)、運動部では0.20の差が見られたが、運動部(4)とは差が見られない。これに対して無所属・文化部では差が少く、有意差は認められなかった。

西田の調査には、文科系の学生も含まれていることを考えれば、工科系としての本学学生の興味得点が低いのは、常識的にもやむをえない結果かも知れない。

#### (IX-3) 種目ごとの経験率と興味得点(第十九表)

(1) 経験率が90%を越しているのは6種目、70%を越すものは15種目あるが、その殆んどは、学校体育の中で経験した種目が多く、社会体育の範囲と思われる種目は、ボーリング、(83.3%) ハイキング(74.4%)、アイススケート(72.8%)などである。

(2) 全ての種目について、経験した種目の方が、経験の無い種目より、得点が高いのは当然の結果で、この結果から見て、いかなる種目でも、まず経験してみることが、大きな動機づけとなり、興味を持つようになることが分る。但し、経験のある種目でも、低い得点を与えた者も少くないという事は、導入の時の印象、特に指導者、指導法の是非が、その種目に対する興味に、後々まで大きく影響することを物語っているといえよう。

(3) 有経験種目の中で、6点以上の種目は7種目あるが、いずれも34位以下(経験率3.2%以下)に見られる。これらはどの種目を見ても、手軽には出来ない種目ばかりで、実施以前から高い興味を示す者でなければ経験しない種目という事ができる。

反対に4点以下の種目には、陸上、マラソン(含ジョギング)、レスリングの3種目が見られ、学校体育としても嫌われている種目の一つといえよう。

(4) 無経験種目の中で、4点以下の種目は11種目も見られ、やはり陸上系、格技系、体操系に多い。

6点を越す種目は見られなかったが、5点以上又はそれに近い得点の種目を見る

と、バドミントン、キャンプ、ハイキング、テニス、スキー、野球などのレクリエーションなもの、および射撃、グライダー、ヨット、アイスホッケー、サーフィンなどマスコミに影響された、今流行のかっこいいものに集中していることが見られる。

#### (IX-4) Y-G類型別興味得点の比較 (二十表)

(1) 無所属ではD類の興味得点がもっとも高く(4.77), B類がもっとも低い(4.40)。文化部ではD類が高く(4.75), E類が低い(4.18)。グループでみると、無所属(4.57)文化部(4.42)で文化部の方が0.15低い得点となり、これは前述の諸結果とも共通している。

(2) 運動部計ではD類, B類が高く、E類が低い。しかし無所属、文化部に較べると差0.11~0.48で得点が高い。

運動部の中では、(3)と(4)の得点が高く、平均が5点を越しているのは(1)のB類、(4)のA類, D類であるが、(5)では類型による差は殆んど見られない。

(3) 全体として、無所属、文化部ではD類の興味得点が高く、運動部では全体に得点が高いが、中でもD類, B類の得点が高い。D類, B類は、いずれも外向的性格のグループなので、これらの性格がスポーツや身体活動を指向し、興味得点を高めることに働いていると考えられる。

#### (IX-5) 2年以上の興味得点比較 (第十三表、第十八表、第十九表、第二十四表)

##### (1) 一般的身体活動に関する興味得点 (第十八表)

2年以上の合計では、1年の場合と殆んど変わらないが、学年別に見ていくと、3年が6.08と得点が高く、2年(5.67)、4年(5.10)の順であった。4年は1年の文化部に近く、2年は無所属に、3年は運動部に近い得点である。3, 4年は人数が少ないのではっきりしないが、前述のY-Gの結果と共通している所が多い。

##### (2) 全種目平均の興味得点 (第十三表、第二十四表)

2年以上の合計で見ると1年の場合と同様に、一般的身体活動の得点(5.71)より低い(4.76)、しかし1年合計よりは高く、運動部の合計に相当する得点であった。

(3) 2年の結果を、西田の調査(大学男子2年<sup>8)</sup>)と比較してみると、無所属(4.56)と運動部(4.82)は本学の方が低く、文化部(4.57)は本学の方が高かった。しかしその差はあまりない。(無・文合計では全く同じ)

##### (4) 種目別経験率と興味得点 (第十九表)

2年以上の合計では、経験率90%以上が6種目、70%以上で15種目と、1年の場

合と全く同じであった（但し、なわとび、ハイキングの代りに、ボーリング、キャンプが入っている）

有経験種目の得点が高いのは当然であるが、経験の有無に関係なく得点が高いのは、バレーボール、バスケットボール、空手などを除けば、1年と同様の傾向、即ちレクリエーション的な手軽な種目、マスコミにしばしばとり上げられる種目、今流行しているカッコ良く見える種目などがあげられている。

興味得点が低い種目も1年と同様で、陸上、格技、体操などの、個人的、克服的種目に集中している。

(5) 類型別興味得点（第二十四表）

運動部計と無、文との間では、やはり興味得点に差があるが（4.82, 4.60）、類型別特徴は少ない。しいて挙げるならば、運動部のB類、D類の得点が少し高いことだけである。

〔X〕 興味得点の運動部経験の有無による比較

(1) 西田<sup>6)</sup>によれば、スポーツマン的性格といわれている特性の中には、スポーツマンでなくても、身体活動に高い興味を示すものが、かなり含まれているのではないかと考えられ、身体活動への興味の強弱と、Y-Gの関係を分析した結果、興味の低い者に比較して、よりスポーツマン的性格を持つとされている。

そこでこれらの点に関して、工科系学生についてはどのような傾向が見られるかを調査したものである。

(2) 運動部としての経験が、性格に与える影響を除くために、運動経験のない無所属、文化部のグループ137名から、興味得点の高い者25%（34名）を上位群とし、低い者25%（35名）を下位群とし、更に比較群として、運動部(4)（中・高・大又は高・大で所属）および運動部(3)（中・高にて所属）の2群と比較した。

(3) 運動部(4)は西田の結果と比較する為であり、運動部(3)は、本学でもっともスポーツマン的性格に近いグループとしてとり上げた。

その理由としては、本学の運動部活動は、あまり活発とはいえず、更に近年は、中・高で運動部活動を行って来た者のうち、大学でも入部する者が非常に少ない事、その為にむしろ運動部(3)の方が、前述の結果（第二十一表）を見ても、よりスポーツマン的性格が強い事、大学で運動部に所属しているといっても、1年の段階では、はっきり固定しているとはいえない事などが挙げられるので、2つのグループをとり上げて比較した訳である。

(X-1) 興味得点の比較(第二十一表、第二十三表)

(1) 全種目にわたって調査した、興味得点の平均を見ると、上位群が高く(5.16)、運動部(4)(5.01)、(3)(4.76)の得点を上まわっている。これに対して下位群の得点(3.78)は、当然の事ながら低い。各群相互を検定した結果、運動部(4)と上位群をのぞく全てに明らかな有意差が見られた。

(2) 運動部の中では(3)の得点が(4)より低いが、これは大学に入ってから、運動部活動をしていない為(現在は無所属)と考えられる。運動部(4)は現在活動中という事で、当然高い得点になったと思われる。この事は、一般的身体活動の興味にも表われている。

(3) 西田が調査した結果と比較すると、本学の平均は、上位群が低く(本学 5.16、西田 5.37)、他は殆んど同じであった。

これらを検定した結果は、本学と西田の間では、上、下位群共に2つの尺度に差が認められただけで、この点からも、同じレベルのグループであるといえる。又運動部については、運動部(4)との間では4尺度、運動部(3)との間では6尺度に夫々有意差があった。この結果及び第10図から見ても、本学の運動部の方が、両グループ共に西田の運動部より、かなりD型(右下り型)に寄っていることが分る。表中⊖印の記号は、有意差は見られないが、本学より西田の方がD型寄りであった尺度を示す。

(X-2) Y-G尺度の比較(第二十一表、第7図、第9図、第10図)

(1) Y-G尺度について、上、下位群を比較すると、6尺度について明らかな差が見られ、上位群の方がはっきりD型寄りで、スポーツマン的性格に近い。又有意差は見られなかったが、各尺度のうち、この傾向が逆転しているのは、O(客観性欠除)、T(思考的内向)だけであった。

(2) 上位群と運動部(4)、(3)を比較すると、運動部(4)では、G(非活動性)、運動部(3)では、N(神経質)、O、Tに有意差が見られたが、他の尺度には認められず、性格的にはほぼ同質のグループと見ることができる。

(3) 下位群と運動部(4)、(3)とは、当然の結果ながら、前者とは8尺度、後者とは全ての尺度で有意な差が見られ、下位群は明らかにE型寄りで、性格的にも異質なグループといえることができる。

(X-3) 類型別比較(第12図)

(1) 類型別については第12図を見ると、前述の結果が、はっきり示されている。即ち、上位群のD類(38.2%)に対し、下位群のD類は(5.7%)極端に少なく、反対に

E類では、上位群(14.7%)、下位群(34.3%)、C類では、上位群(2.9%)、下位群(14.3%)であり、明らかに相違している。

(2) これに対して上位群と運動部(4),(3)の間には殆んど差が見られず、Y-G尺度の結果や、西田の結果とも一致している。

#### (X-4) まとめ

(1) 予測された結果とはいえ、上位群と運動部(4),(3)は、2～3の尺度に有意差が見られたが、かなり同じ傾向の性格を有していると考えられる。上位群と運動部(4)の間では、一般的活動性(G)に劣るだけで、ほぼ同じ性格を持っており、運動部(3)の間では、神経質で(N)、客観性に欠け(O)、思考的に内向性(T)を示しているが、やはりかなり近い性格といえよう。

(2) 下位群については、上位群や運動部とは、明らかな性格相違が見られる。このことは、興味得点や類型別の分類表などからも明らかである。

(3) 以上の結果から、運動部としての経験や身体活動の経験がなくても、高い興味得点を示す上位群は、運動部経験者とはほぼ共通した性格特性を有しているグループといえることができる。

### [XI] 他の研究例との比較

Y-G 検査法を利用した体育に関する研究は数多いが、本研究と比較できる様な資料は少ない。又あっても、Y-G 調査用紙の旧版を使用している為に比較できないものもあるが、類似している研究をいくつか挙げると、

(1) 山田久喜(近畿大)<sup>9)</sup>の研究発表中に、近畿大学理工学部学生175人について、Y-G尺度別の結果があるので比較してみた。

第二十五表に見られる通り、本学1年との間には、N, O, A尺度を除いて有意差が見られ、本学生の方が全体としてD型寄りといえるが、その中で、Ag G 因子(非活動性因子)は逆の有意差があり、本学生は近畿大学生に対して、情緒安定、協調的、非活動性、非衝動性、社会的外向性を示しているという事ができよう。

又本学前回(1967)<sup>9)</sup>調査との比較では、Ag, G, R尺度の粗点について本学の方が劣っており、G(一般的活動性)は有意差が見られたが、大卒では前述した今回の調査結果との比較と変わらないといえよう。

(2) 山田久喜(近畿大学)の1964年の研究<sup>11)</sup>に見られる理工学部の学科別調査の結果を本学の各科と比較してみると(第二十五表)

a) 機械科については、7尺度で有意差が見られ、本学の方が、D型寄りである。Ag, G については有意差はなかったものの、前述の学部傾向と同様に、わずかではあるが、非活動性の方に傾いている。

b) 化学科では、7尺度に差が見られ、機械科とほぼ同じ傾向である。

c) 電気科では、10の尺度で差が見られ、機械科、化学科より更にはっきりとD型寄りである。

d) 建築科と近畿大の土木科の間では、2尺度に差が見られたが、ほぼ同じ傾向の性格を持った学科といえそうである。

e) 全体として、建築科と土木科の間で似た傾向を示したのに対し、他の3学科では明らかに差が見られ、本学の方が、D型寄り（情緒安定、社会的適応、外向的）といえる。

但し活動性因子（Ag, G）だけは、有意差が見られた尺度は少ないが、近畿大生の方がわずかに活動的であるといえそうである。

(3) 花田<sup>16)</sup>らによる調査との比較（第二十六表）

a) 近畿地方の11大学における調査（運動部員450名、非運動部員39名、計489名）の結果を本学と比較すると、非運動部員（本学の無・文に相当）については、抑うつ性（D）、協調性（Co）、思考的外向性（T）、の尺度で有意差があるだけで、両者はほぼ同じ性格の傾向を持ったグループと見ることができる。

b) 運動部員（本学の運動部計）については、9尺度（G尺度については、本学の方が非活動性の方向に有意差）についてD型寄り（情緒安定、社会適応、外向的）に有意差が見られた。

c) 運動部(1), (3), (4)については、いずれも5～7尺度で有意差が見られ、運動部(3)のG尺度を除いて他は、全7本学の方がD型寄りであった。

しかし運動部(5)については、G尺度だけにE型寄りの差が見られ、他の尺度には有意差が認められないものの、E型寄りの傾向が見られ（表中の⊖印がこれを示す）このグループだけは、ほぼ同じか又は本学の方がわずかにE型寄りと見ることができる。

d) 全体として、無・文計と運動部(5)は、本学とほぼ同じ性格の傾向にあると云えるが、他のグループについては、本学の方がかなりD型寄りといえる。又 Ag G 因子およびO尺度については、本学の方がE型寄り即ち非活動的で客観性欠除の傾向にあることが見られる。これは前述した近畿大学との比較の場合と同じ傾向である。

(4) 兵頭寛（愛媛大）<sup>13)</sup>らの研究によれば、中学生に関する調査ではあるが、一般的身体活動に対する興味得点（男子5.82、女子5.80）は、種目別興味得点の平均（男子5.01、女子4.99）より明らかに高く、又女子より男子が高い。これは対象が異って



はいるが、前述の推察を肯定する資料の1つといえよう。

(5) 小橋川久光(琉球大学)<sup>14)</sup>らによれば、これも中学生に対する研究であるが、上位群と下位群の間には、I, Ag, G, A, S の尺度に有意差が見られ、上位群と運動部の間には全く差がなく、本研究とも一致した傾向を示している。

又同氏は、運動部の中で、興味得点の高い上位群と低い下位群についても分類し検定している。その結果によると、7つの尺度で差が見られ、特に向性二次因子(Ag GRTAS)にまとまった差が見られる。この点について、今回は検討をしていないがおそらく大学生である本学学生についても同じ結果が出るのではないかと推察される。

(6) 辻岡美延(京都大)<sup>15)</sup>、西田明子(東横学園女短大)<sup>16)</sup>、については、本文で引用比較しているので、ここでは除く。

## 〔XII〕 総 括

(1) Y-G尺度、類型別について

a) 辻岡の全国的標準に比較して、本学合計は活動性因子以外の全てに有意差が見られる。この点については、尺度別、因子グループ別、類型別などについてもほぼ同様であり、本学学生は、はっきりとD型寄り(情緒安定、社会適応、外向)である。これは近畿大学理工学部に対しても同じである。又今回と前回(1967)の間には、8尺度で差が見られたが、*t*検定は調査数が多いと、絶対値が小さくても差が出易い性質があり、図型から見る限り、同じ様な性格の集団と見る事が出来る。

Ag尺度(攻撃的)については、辻岡に較べてE型寄りの傾向が見られたが、これもO Co Agの因子グループとして見るならば、結合が見られ、社会的適応性があるといえる。更に情緒安定因子(D, C, I, N)との結合も見られることから、社会的にも活躍していく可能性をひめた性格という事ができよう。

b) 経験グループ別では、辻岡に比較して、無所属より文化部の方が平均的な性格といえるが、無と文の合計で見ると、おとなしく、のんきで非活動的など、工科系の特色が見られるようである。

運動部については、(1), (3), (4)は明らかにD型寄りでスポーツマン的性格に近いが、(2), (5)では、E型寄り、運動部経験者の中では、もっとも無・文に近いグループといえよう。

c) 学科別に見ると、辻岡及び本学合計に較べて機械科、化学科、化工科、電気科がはっきりD型寄りであったが、他の3学科は本学1年の平均に対しては、むしろE型寄りに近いといえよう。

d) 全体として、辻岡平均や近畿大などに較べると、かなりD型寄りであるが、本学の平均に較べると、経験グループや学科の間に差が見られる。前回調査との比較でも、小・中・高での指導要領の変化や、十数年の時の流れが、各グループの性格に、微妙に影響しているようである。

(2) 2年以上について

a) はじめに断ったように、これは保・体講義の再履習者グループである。この結果を見ると、2年については、ややE型（情緒不安定、やや社会不適応、やや内向的）の傾向が見られるが、はっきりした傾向とは云えず、あまり問題がないといえる。3年については、B型（情緒不安定、社外不適応、外向）の傾向、4年については、調査数が少ないのではっきりとは云えないが、C型（情緒安定、社会適応、内向）もしくはE型寄り（前述）の傾向が見られた。

b) 1年に比較すると、学年が進むにつれて、性格プロフィールの乱れが見られる。又2年以上の合計でも、運動部所属の比率が73%で、1年の76%と殆んど変わらないにもかかわらず、無所属、文化部に近い傾向を示しており、この集団は体育だけの再履習者の特徴ではなく、全体に共通している性格とも考えられ、性格の違いによって、学業にも差が出てくるのではないかと推察されるが、この点については今後多くのデータを集めて、更に検討してみる必要がある。

(3) 身体活動と興味得点について

a) 一般的身体活動に対する興味については、運動部が高いのは当然のことであるが、その中でも、運動部(2),(5)などのように、無所属と変わらないグループもあることが分った。又学科別では機械科、建築科が高く、学科の特色といえるのではないだろうか。

b) 51種目の平均得点では、前述の結果と大きな違いはないようである。

c) 西田<sup>7)</sup>の調査した、文科系を含んだ、関東の大学生と比較すると、運動部の得点で差が見られるが、運動部グループの中の現役と云える(4)との差は殆んどない。合計の得点では有意差が見られ、文科系と工科系の差が、ここに表われていると見ることができる。

d) 種目別の経験率では、上位には学校体育での実施種目が多く、得点の高い種目には、手軽には取りくめないもの、真に積極的な意志がなければ出来ない種目が多い。反対に得点の低い種目は一般的に嫌われやすい、陸上、体操、格技系の種目が多い。

又無経験種目の中で得点が高いのは、手軽なレクリエーション種目、流行種目などで占められ、低い得点種目は、前述した種目と同様、学校体育でもあまり好まれない、個人的種目、克服的、挑戦的種目が多い。

(4) 興味得点の上、下位群と運動部の性格

a) 無所属、文化部の中から、興味得点の上位群と下位群を選別し、運動部(4),(3)と比較してみた結果、上位群と運動部(4),(3)とは、ほぼ同じ性格のグループといえ、その他のグループ間には明らかな差が見られた。

b) 又西田の調査と比較しても、Y-G 尺度でいくつかの差が見られるものの、有意差のあった運動部(3)と西田の運動部との間をのぞけば、ほぼ同様の結果であったといえる。

以上の結果から、初めに予測したように、運動部経験の無い者でも、身体活動への興味得点が高い上位群の性格は、かなり運動部員の性格(スポーツマン的性格)に近いことが実証された。

c) 小橋川<sup>14)</sup>らが、中学生の運動部員を、興味得点によって上、下位群に分けた調査でも、同様の結果が見られた事から、大学生の運動部員の中にも、興味得点の差によって性格の違いが見られることは、充分推測される。又それは運動種目の違いとつながっている事も考えられるが、今後調査してみたい。

d) 今回分類した運動部の中の(1),(2),(5)は、運動部を中退したというよりは、性格的な面についていけずに、淘汰、脱落していった者が、かなり多数含まれているグループと見ることができよう。

(5) おわりに

a) 本学の学生は、辻岡の平均や、近畿大理工学部と比較して、おとなしく、消極的な所があるものの、性格的にはかなり良い傾向にあるといえる。

辻岡平均とは、かなり大きな差が見られるが、これは全国的な標準スケールを作り直す時期が来ているのではないかと考えられる。

b) 「習得か生得か」については、これまでスポーツマン的性格とされてきたものが、必ずしもスポーツを経験したことだけに影響されるものではなく、スポーツマン的性格を持っている者、あるいは身体活動への興味が強い者がスポーツを行ない、そうでない者は、仮にスポーツ活動をはじめても、運動部(1),(2),(5)のグループのように、脱落あるいは淘汰されていった結果、スポーツマン的性格が助長されていくように見えるのではないかと考えられる。

c) 山田<sup>10)</sup>によれば、1部・2部学生の間にも、性格の差が見られるという事であるが、本学についてはどうか、再履習者の性格に関する問題と共に今後調査してみたい。

d) 今回調査した Y-G では、好しくない性格の典型として、B型とE型があげられ

るが、全体として49名(7.0%)存在している。この中には、エンジニアタイプとして、好ましい性格の学生も含まれているだろうが、問題のある学生も多く含まれていると思われる。今後は、個別にこれらの点を追求してみたい。

e) Y-G検査と興味の調査によって、学生の性格を把握しようとしてきたが、この結果が、全学生に当てはまるとはいきれない。しかし、心理学的な手続により、全国的に標準化された性格検査によった結果との比較である以上、本学々生の性格の一面を捉えていることは疑えない。我々は、これらの事実を真剣に受けとめて、大学教育の場に生かしていくと共に、より良き人間形成の為に、常に努力していかなければならない事を痛感している次第である。

参考文献・引用文献

- 1) 辻岡美延「新性格検査法」(Y-G 性格検査実施・応用・研究手引) 竹井機器工業KK、1965年、p. 19.
- 2) 同上 p. 21.
- 3) 同上 p. 22.
- 4) 同上 p. 37~40.
- 5) 鎌田英爾「工学院大学新入生の Yatabe Guilford 性格検査による性格」工学院大学論叢第6号、1967
- 6) 西田明子「身体活動に対する興味とパーソナリティーの関係」東横学園女子短期大学紀要第十号、1972
- 7) 西田明子「男子大学生の身体活動に対する興味とパーソナリティーの関係」東横学園女子短期大学紀要、第十二号、1974
- 8) 川口勇「心理学講座5」東大出版会、1969、p. 141.
- 9) 山田久喜「本学生の一部に実施した、矢田部ギルフォード性格検査の結果報告」近畿大学職業科学研究所紀要「職業科学」No. 2, 1961, p. 30.
- 10) 山田久喜「矢田部ギルフォード性格検査による1・2部学生の性格特性の比較(1)」近畿大学職業科学研究所紀要「職業科学」No. 3, 1962.
- 11) 山田久喜「理工学部学生に課した矢田部ギルフォード性格検査の結果について」近畿大学芸文第5巻1号、1964、p. 4~9.
- 12) 橋本邦子「運動種目に対する興味と性格との関係についての研究」常葉女子短期大学紀要No. 7, 1975.
- 13) 兵頭寛「中学生のレクリエーション的身体活動に対する興味と体格運動能力の自己評価との関係について」日本体育学会、1974.
- 14) 小橋川久光「中学生のレクリエーション的身体活動に対する興味とパーソナリティーの関係」琉球大学教育学部紀要第18集、1975.
- 15) 堀内敏、岩井勇児「心理テスト入門」黎明書房、1967、p. 218~240.
- 16) 花田敬一、竹村昭、藤善尚憲「スポーツマン的性格」不味堂出版、1968、p. 62~69、p. 255~256.

(かまた えいじ 保健体育 本学助教授)

性格と身体活動への興味に関する研究

第一表 学科別（1年）Y-G粗点平均と標準偏差

尺度	機械科	工化科	化工科	電気科	電子科	情報科	建築科	尺度	合計 (1年)	辻岡 平均
D $\bar{x}$ SD	8.29 5.24	7.79 5.61	8.93 5.48	7.82 5.15	9.91 5.37	9.53 5.28	10.13 6.40	D	8.59 5.47	11.23 5.51
C	8.28 4.48	8.45 4.57	8.21 4.81	7.95 4.49	9.74 4.70	8.40 4.34	9.15 5.73	C	8.49 4.66	9.98 4.99
I	7.76 4.73	7.46 5.13	7.23 5.31	7.49 4.83	9.09 5.11	9.00 5.96	8.36 5.75	I	7.87 5.07	8.97 5.52
N	8.81 4.94	8.76 4.97	7.88 4.96	9.00 4.70	10.13 5.08	10.00 6.16	10.21 6.12	N	9.04 5.13	9.72 5.35
O	7.75 3.99	6.86 4.18	7.61 3.96	7.93 4.02	8.28 4.08	9.00 4.14	8.51 4.39	O	7.79 4.09	8.11 4.38
Co	7.19 3.43	7.73 4.07	6.56 4.08	7.49 3.65	7.22 4.24	8.20 4.54	7.09 4.02	Co	7.30 3.83	8.34 4.06
Ag	10.56 4.06	11.14 4.17	10.54 4.20	10.82 3.44	9.89 3.69	10.77 3.97	10.36 4.00	Ag	10.61 3.98	10.87 4.25
G	11.25 4.33	11.54 4.84	11.88 4.84	12.11 4.11	9.43 3.77	10.17 4.39	10.13 4.70	G	11.13 4.48	10.85 5.16
R	11.83 4.27	11.78 4.27	12.11 4.52	12.03 4.43	10.20 4.21	10.70 4.14	11.91 4.44	R	11.66 4.33	9.96 4.85
T	10.44 4.38	10.82 4.31	10.21 4.51	9.90 4.37	9.15 4.01	8.33 3.20	9.83 4.18	T	10.13 4.30	8.16 4.62
A	9.35 4.76	10.15 5.08	10.49 5.48	9.28 4.66	8.07 4.37	8.40 5.32	9.21 4.50	A	9.41 4.88	8.52 5.53
S	12.55 4.91	13.15 5.15	12.65 5.14	13.41 4.46	10.52 4.34	11.23 5.77	12.26 5.31	S	12.46 5.00	10.23 5.48
(N)	218	95	57	61	54	30	47	(N)	562	4,136

第二表 学系別（1年）及学年別Y-G粗点平均と標準偏差

尺度	1 年					2 年	3 年	4 年	2・3・4 年 計	尺度
	機械系	化学系	電気系	建築系	1 年計					
D $\bar{x}$ SD	8.29 5.24	8.22 5.57	8.95 5.31	10.13 6.40	8.59 5.47	9.22 6.08	10.60 5.64	10.50 5.84	9.57 5.97	D
C	8.28 4.48	8.63 4.65	8.71 4.58	9.15 5.73	8.49 4.66	8.38 4.93	11.48 4.98	8.70 4.19	8.97 5.00	C
I	7.76 4.73	7.38 5.18	8.40 5.20	8.36 5.75	7.87 5.07	7.02 4.99	8.08 4.84	8.40 4.50	7.32 4.92	I
N	8.81 4.94	8.43 4.97	9.63 5.16	10.21 6.12	9.04 5.13	8.55 5.07	10.44 4.77	8.30 4.67	8.88 5.01	N
O	7.75 3.99	7.14 4.10	8.28 4.06	8.51 4.39	7.79 4.09	7.69 4.74	9.84 5.16	8.00 5.21	8.11 4.89	O
Co	7.19 3.43	7.29 4.10	7.54 4.06	7.09 4.02	7.30 3.83	7.20 4.24	7.68 4.78	9.50 3.60	7.46 4.32	Co
Ag	10.56 4.06	10.91 4.18	10.46 3.65	10.36 4.00	10.61 3.98	11.62 3.97	11.16 4.33	12.20 4.34	11.58 4.03	Ag
G	11.25 4.33	11.66 4.83	10.71 4.20	10.13 4.70	11.13 4.48	11.08 4.48	12.04 4.62	12.50 6.22	11.36 4.64	G
R	11.83 4.27	11.90 4.35	11.08 4.34	11.91 4.44	11.66 4.33	11.84 4.29	12.88 4.68	12.10 5.43	12.05 4.43	R
T	10.44 4.38	10.59 4.38	9.30 4.03	9.83 4.18	10.13 4.30	9.92 4.45	10.04 4.46	9.90 3.31	9.94 4.35	T
A	9.35 4.76	10.28 5.22	8.65 4.70	9.21 4.50	9.41 4.88	9.92 4.80	11.36 4.97	8.10 3.78	10.05 4.80	A
S	12.55 4.91	12.96 5.13	11.88 4.87	12.26 5.31	12.46 5.00	12.68 5.06	12.92 6.12	11.70 6.02	12.65 5.30	S
(N)	218	152	145	47	562	101	25	10	136	(N)

## 鎌 田 英 爾

第三表 経験別Y—G粗点平均と標準偏差及辻岡平均

尺度	無所属	文化部	無・文計	運 動 部					運動部計	尺度
				(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		
D $\bar{x}$ SD	9.18	9.38	9.30	8.06	9.37	7.72	8.38	11.08	8.37	D
	5.71	5.36	5.48	5.26	5.61	5.21	5.47	6.49	5.45	
C	9.33	8.22	8.66	8.14	8.70	8.03	9.73	9.25	8.43	C
	4.82	4.64	4.73	4.84	4.73	4.31	4.75	4.94	4.65	
I	8.71	8.72	8.72	7.42	8.84	7.03	6.89	9.75	7.60	I
	5.06	4.93	4.96	4.69	5.27	4.97	5.60	5.45	5.08	
N	9.96	10.26	10.14	8.67	9.66	7.97	8.29	10.92	8.68	N
	5.25	4.87	5.01	5.14	5.16	5.02	4.85	5.39	5.12	
O	8.47	8.41	8.44	7.70	8.25	6.83	8.27	8.29	7.58	O
	3.83	4.27	4.09	3.94	4.47	3.84	4.22	4.10	4.07	
Co	6.98	7.72	7.42	7.57	7.60	7.12	6.22	7.21	7.25	Co
	3.57	3.80	3.71	3.97	3.54	3.96	3.46	4.32	3.87	
Ag	9.91	9.99	9.96	10.33	10.71	11.56	11.00	9.38	10.85	Ag
	3.88	4.39	4.18	4.12	3.21	3.95	4.09	3.52	3.91	
G	9.42	10.07	9.81	10.92	10.89	12.11	13.84	8.88	11.53	G
	4.03	4.40	4.25	4.58	3.90	4.36	4.04	4.83	4.48	
R	11.60	10.61	11.01	11.31	11.14	12.42	13.49	10.71	11.87	R
	4.20	4.35	4.30	4.52	3.99	4.08	4.31	4.71	4.32	
T	10.69	9.27	9.84	10.45	9.60	10.64	9.40	9.42	10.20	T
	4.00	4.06	4.09	4.34	4.32	4.20	5.15	3.97	4.37	
A	7.31	9.38	8.55	9.17	8.86	10.39	11.56	7.29	9.70	A
	4.22	5.32	5.00	4.45	4.83	4.47	5.88	5.04	4.81	
S	10.98	11.29	11.17	12.71	11.90	13.38	14.60	10.33	12.88	S
	5.45	5.50	5.46	4.85	4.70	4.51	4.50	5.11	4.76	
(N)	55	82	137	132	73	151	45	24	425	(N)

第四表 辻岡平均(上段)及本学1年平均(下段)との差(学系, 学年別)

尺度	1 年				1 年計	2 年	3 年	4 年	2 年 以上計	尺度
	機械系	化学系	電気系	建築系						
D	-2.94	-3.01	-2.28	-1.10	-2.64	-2.01	-0.63	-0.73	-1.66	D
	-0.30	-0.37	0.36	1.54		0.63	2.01	1.91	0.98	
C	-1.70	-1.35	-1.27	-0.83	-1.49	-1.60	1.50	-1.28	-1.01	C
	-0.21	0.14	0.22	0.66		-0.11	2.99	0.21	0.48	
I	-1.21	-1.59	-0.57	-0.61	-1.10	-1.95	-0.89	-0.57	-1.65	I
	-0.11	-0.49	0.53	0.49		-0.85	0.21	0.53	-0.55	
N	-0.91	-1.29	-0.09	0.49	-0.68	-1.17	0.72	-1.42	-0.84	N
	-0.23	-0.61	0.59	1.17		-0.49	1.40	-0.74	-0.16	
O	-0.36	-0.97	0.17	0.40	-0.32	-0.42	1.73	-0.11	0	O
	-0.04	-0.65	0.49	0.72		-0.10	2.05	0.21	0.32	
Co	-1.15	-1.05	-0.80	-1.25	-1.04	-1.14	-0.66	1.16	-0.88	Co
	-0.11	-0.01	0.24	-0.21		-0.10	0.38	2.20	0.16	
Ag	-0.31	0.04	-0.41	-0.51	-0.26	0.75	0.29	1.33	0.71	Ag
	-0.05	0.30	-0.15	-0.25		1.01	0.55	1.59	0.97	
G	0.40	0.81	-0.14	-0.72	0.28	0.23	1.19	1.65	0.51	G
	0.12	0.53	-0.42	-1.00		-0.05	0.91	1.37	0.23	
R	1.87	1.94	1.12	1.95	1.70	1.88	2.92	2.14	2.09	R
	0.17	0.24	-0.58	0.25		0.18	1.22	0.44	0.39	
T	2.28	2.43	1.14	1.67	1.97	1.76	1.88	1.73	1.78	T
	0.31	0.46	-0.83	-0.30		-0.21	-0.09	-0.23	-0.19	
A	0.87	1.76	0.13	0.69	0.89	1.40	2.84	-0.42	1.53	A
	-0.06	0.87	-0.76	-0.20		0.51	1.95	-1.31	0.64	
S	2.32	2.73	1.65	2.03	2.23	2.45	2.69	1.47	2.42	S
	0.09	0.50	-0.58	-0.20		0.22	0.46	-0.76	0.19	
(N)	218	152	145	47	562	101	25	10	136	(N)

性格と身体活動への興味に関する研究

第五表 辻岡平均(上段)及本学1年平均(下段)との差(経験別)

尺度	無所属	文化部	無・文計	運 動 部					運動部計	尺度
				(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		
D	-2.05 0.59	-1.85 0.79	-1.93 0.71	-3.17 -0.53	-1.86 0.78	-3.51 -0.87	-2.85 -0.21	-0.15 2.49	-2.86 -0.22	D
C	-0.65 0.84	-1.76 -0.27	-1.32 0.17	-1.84 -0.35	-1.28 0.21	-1.95 -0.46	-0.25 1.24	-0.73 0.76	-1.55 -0.06	C
I	-0.26 0.84	-0.25 0.85	-0.25 0.85	1.55 -0.45	-0.13 0.97	-1.94 -0.84	-2.08 -0.98	0.78 1.88	-1.37 -0.27	I
N	0.24 0.92	0.54 1.22	0.42 1.10	-1.05 -0.37	-0.06 0.62	-1.75 -1.07	-1.43 -0.75	1.20 1.88	-1.04 -0.36	N
O	0.36 0.68	0.30 0.62	0.33 0.65	-0.41 -0.09	0.14 0.46	-1.28 -0.96	0.16 0.48	0.18 0.50	-0.53 -0.21	O
Co	-1.36 -0.32	-0.62 0.42	-0.92 0.12	-0.77 0.27	-0.74 0.30	-1.22 -0.18	-2.12 -1.08	-1.13 -0.09	-1.09 -0.05	Co
Ag	-0.96 0.70	-0.88 0.62	-0.91 0.65	0.54 0.28	-0.16 0.10	0.69 0.95	0.13 0.39	-1.49 -1.23	-0.02 0.24	Ag
G	-1.43 -1.71	-0.78 -1.06	-1.04 -1.32	0.07 -0.21	0.04 -0.24	1.26 0.98	2.99 2.71	-1.97 -2.25	0.68 0.40	G
R	1.64 -0.06	0.65 -1.05	1.05 -0.65	1.35 -0.35	1.18 -0.52	2.46 0.76	3.53 1.83	0.07 -0.95	1.91 0.21	R
T	2.53 0.56	1.11 -0.86	1.68 -0.29	2.29 0.32	1.44 -0.53	2.48 0.51	1.24 -0.73	1.26 -0.71	2.04 0.07	T
A	-1.21 -2.10	0.86 -0.03	0.03 -0.86	0.65 -0.24	0.34 -0.55	1.87 0.98	3.04 2.15	-1.23 -2.12	1.18 0.29	A
S	0.75 -1.48	1.06 -1.17	0.94 -1.29	2.48 0.25	1.67 -0.56	3.15 0.92	4.37 2.14	0.10 -2.13	2.65 0.42	S
(N)	55	82	137	132	73	151	45	24	425	(N)

第六表 辻岡平均(上段)及本学1年平均(下段)との差(学科別)

尺度	機械科	化学科	化工科	電気科	電子科	情報科	建築科	1 年 計	尺度
D	-2.94 -0.30	-3.44 -0.80	-2.30 0.34	-3.41 -0.77	-1.32 1.32	-1.70 0.94	-1.10 1.54	-2.64	D
C	-1.70 -0.21	-1.53 -0.04	-1.77 -0.28	-2.03 -0.54	-0.24 1.25	-1.58 -0.09	-0.83 0.66	-1.49	C
I	-1.21 -0.11	-1.51 -0.41	-1.74 -0.64	-1.48 -0.38	0.12 1.22	0.03 1.13	-0.61 0.49	-1.10	I
N	-0.91 -0.23	-0.96 -0.28	-1.84 -1.16	-0.72 -0.04	0.41 1.09	0.28 0.96	0.49 1.17	-0.68	N
O	-0.36 -0.04	-1.25 -0.93	-0.50 -0.18	-0.18 0.14	0.17 0.49	0.89 1.21	0.40 0.72	-0.32	O
Co	-1.15 -0.11	-0.61 0.43	-1.78 -0.74	-0.85 0.19	-1.12 -0.08	-0.14 0.90	-1.25 -0.21	-1.04	Co
Ag	-0.31 -0.05	0.27 0.53	-0.33 -0.07	-0.05 0.21	-0.98 -0.72	-0.10 0.16	-0.51 -0.25	-0.26	Ag
G	0.40 0.12	0.69 0.41	1.03 0.75	1.26 0.98	-1.42 -1.70	-0.68 -0.96	-0.72 -1.00	0.28	G
R	1.87 0.17	1.82 0.12	2.15 0.45	2.07 0.37	0.24 -1.46	0.74 -0.96	1.95 0.25	1.70	R
T	2.28 0.31	2.66 0.69	2.05 0.08	1.74 -0.23	0.99 -0.98	0.17 -1.80	1.67 -0.30	1.97	T
A	0.81 -0.06	1.63 0.74	1.97 1.08	0.76 -0.13	-0.45 -1.34	-0.12 -1.01	0.69 -0.20	0.89	A
S	2.32 0.09	2.92 0.69	2.42 0.19	3.18 0.95	0.29 -1.94	1.00 -1.23	2.03 -0.20	2.23	S
(N)	218	95	57	61	54	30	47	562	(N)

第七表 学科別類型（1年）

学 科	機 械 科		工 化 科		化 工 科		電 気 科		電 子 科		情 報 科		建 築 科		学 科
	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	類 型
A	8	3.7	5	5.3	23	8.8	0	0	2	3.7	11	3.3	2	4.3	A
A'	20	9.2	4	4.2	3	5.3	5	8.2	4	7.4	20.4	10.0	1	2.1	A'
A''	28	12.8	14	14.7	6	10.5	7	11.5	5	9.3	0	0	3	6.4	A''
B	6	2.8	7	7.4	14	5.3	1	1.6	1	1.9	6	0	3	6.4	B
B'	15	6.9	4	4.2	3	5.3	7	11.5	1	1.9	2	6.7	4	8.5	B'
AB	10	4.6	3	3.2	0	0	4	6.6	4	7.4	11.1	0	0	0	AB
C	11	5.0	6	6.3	12	7.0	2	3.3	5	9.3	12	3.3	2	4.3	C
C'	6	2.8	2	2.1	2	3.5	1	1.6	4	7.4	22.2	6.7	2	4.3	C'
AC	13	6.0	4	4.2	1	1.8	4	6.6	3	5.6	1	3.3	3	6.4	AC
D	26	11.9	21	22.1	35	17.5	7	11.5	4	7.4	11	10.0	7	14.9	D
D'	38	17.4	8	8.4	11	19.3	10	16.4	5	9.3	3	10.0	5	10.6	D'
AD	11	5.0	6	6.3	2	3.5	5	8.2	2	3.7	20.4	13.3	5	10.6	AD
E	5	2.3	3	3.2	10	5.3	0	0	0	0	11	13.3	2	4.3	E
E'	13	6.0	5	5.3	1	1.8	3	4.9	8	14.8	4	13.3	5	10.6	E'
AE	7	3.2	2	2.1	3	5.3	3	4.9	3	5.6	20.4	3.3	3	6.4	AE
F	1	0.5	1	1.1	2	3.5	2	3.3	3	5.6	3	3.3	1	0	F
標準型	56	25.7	42	44.2	23	40.4	10	16.4	12	22.2	9	30.0	16	34.0	標準型
準型	92	42.2	23	24.2	20	35.1	26	42.6	22	40.7	14	46.7	17	36.2	準型
曲型	69	31.7	29	30.5	12	21.1	23	37.7	17	31.5	6	20.0	14	29.8	曲型
その他	1	0.5	1	1.1	2	3.5	2	3.3	3	5.6	1	3.3	0	0	その他
(N)	218	95	57	57	61	54	47	30	47	30	47	30	47	30	(N)



第八表 學系(1年), 學年別, 類型

学 科	1 年 計										2 年 計										3 年 計										4 年 計										2. 3. 4. 年 計		学 年
	機 械 系					化 学 系					電 気 系					建 築 系					1 年 計					2 年 計					3 年 計					4 年 計					頻 数	%	
	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%												
類 型	A	8	3.7	56	10	6.6	37	3	2.1	27	1	2.1	4.3	6	23	4.1	126	2	2.0	15	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1.5	17	A								
	A'	20	9.2	7	4.6	12	8.3	12	8.3	18.6	3	6.4	7	36	40	7.1	22.4	3	3.0	14.9	1	4.0	8.0	0	0	0	0	0	0	0	4	2.9	A'										
	A"	28	12.8	25.7	20	13.2	24.3	12	8.3	18.6	3	6.4	7	19	3.4	76	5	5.0	13	3	12.0	9	0	0	0	0	0	0	0	11	8.1	A"											
	B	6	2.8	31	8	5.3	18	2	1.4	20	4	8.5	7	36	64	7.1	22.4	5	5.0	13	4	16.0	9	0	0	0	0	0	0	0	9	6.6	B										
	B'	15	6.9	7	4.6	10	6.9	10	6.9	13.8	0	0	14.9	21	3.7	13.5	3	3.0	12.9	2	8.0	36.0	1	10.0	20.0	6	4.4	17.6	AB	6	2.8	19	B'										
	AB	10	4.6	14.2	3	2.0	11.8	8	5.5	13.8	0	0	14.9	21	3.7	13.5	3	3.0	12.9	2	8.0	36.0	1	10.0	20.0	6	4.4	17.6	AB	9	6.6	19	C										
	C	11	5.0	30	10	6.6	19	8	5.5	23	2	4.3	7	31	5.5	79	6	5.9	14	2	8.0	3	1	10.0	3	9	6.6	19	C	4	2.9	C'											
C'	6	2.8	4	2.6	4	2.6	7	4.8	15.9	3	6.4	14.9	29	5.2	14.1	2	2.0	13.9	0	1	4.0	0	1	10.0	4	2.9	C'	4	2.9	14.0	AC	6	4.4	AC									
AC	13	6.0	13.8	5	3.3	12.5	8	5.5	15.9	3	6.4	14.9	29	5.2	14.1	6	5.9	13.9	0	0	12.0	1	10.0	30.0	6	4.4	17.6	AC	0	0	16	11.8	D										
D	26	11.9	75	31	20.4	58	14	9.7	43	7	14.9	17	78	13.9	193	14	13.9	43	2	8.0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	23.5	D'										
D'	38	17.4	19	12.5	18	12.4	18	12.4	29.7	5	10.6	36.2	80	14.2	24	23.8	5	5.0	42.6	5	20.0	3	30.0	40.0	7	5.1	40.4	AD	7	5.1	40.4	AD											
AD	11	5.0	34.4	8	5.3	38.7	11	7.6	29.7	5	10.6	36.2	35	6.2	34.3	5	5.0	42.6	1	4.0	32.0	1	10.0	40.0	7	5.1	40.4	AD	0	0	1	4	2.9	E									
E	5	2.3	25	6	3.9	17	4	2.8	26	2	4.3	10	17	3.0	78	4	4.0	14	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	2.9	E'										
E'	13	6.0	6	3.9	15	10.3	7	4.8	17.9	3	6.4	21.3	39	6.9	8	7.9	2	2.0	13.9	0	8.0	1	10.0	10.0	3	2.2	12.5	AE	10	7.4	2.2	E'											
AE	7	3.2	11.5	5	3.3	11.2	7	4.8	17.9	3	6.4	21.3	22	3.9	13.9	2	2.0	13.9	0	0	8.0	1	10.0	10.0	3	2.2	12.5	AE	0	0	3	2.2	AE										
F	1	0.5	1	3	2.0	3	6	4.1	6	0	0	0	0	10	1.8	2	2.0	2	2.0	2	1	4.0	1	0	0	0	0	0	0	3	2.2	3	F										
																																	2.2										

典 型
---

第九表 経験グループ別類型（1年）

経験 類型	無 所 属		文 化 部				無・文 計		運 動 部 (1)		運 動 部 (2)		運 動 部 (3)		運 動 部 (4)		運 動 部 (5)		運 動 部 計		経験 類型								
			頻 数	%	頻 数	%			頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%									
	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%									
A	2	3.6	17	2	2.4	20		4	2.9	37	0	0	18	6.6	32	1	2.2	9	0	4	19	4.5	A						
A'	9	16.4		7	8.5			16	11.7		6	8.2	9	6.0		4	8.9		1	4.2	24	5.2	A'						
A''	6	10.9	30.9	11	13.4	24.4		17	12.4	27.0	14	10.6	24.7	13	8.6	21.2	4	8.9	20.0	3	16.7	46	10.8	A''					
B	2	3.6	6	4	4.9	10	6	4.4	16	3	2.3	20	3	4.1	10	2	1.3	19	3	8.3	13	3.1	B						
B'	2	3.6		6	7.3			8	5.8		11	8.3	5	6.8		3	6.7		1	4.2	28	6.6	B'						
AB	2	3.6	10.9	0	0	12.2	2	1.5	11.7	6	4.5	15.2	2	2.7	13.7	9	6.0	12.6	2	4.4	17.8	0	12.5	19	4.5	AB			
C	2	3.6	5	4	4.9	16	6	4.4	21	13	9.8	24	3	4.1	11	4	2.6	13	2	4.4	3	3	12.5	7	25	5.9	C		
C'	0	0		4	4.9			4	2.9	4	3.0		5	6.8		0	0			1	4.2	15	3.5		15	3.5	C'		
AC	3	5.5	9.1	8	9.8	19.5	11	8.0	15.3	7	5.3	18.2	3	4.1	15.1	4	2.6	8.6	1	2.2	46.7	3	12.5	29.2	18	4.2	13.6	AC	
D	5	9.1	16	7	8.5	21	12	8.8	37	10	7.6	43	10	13.7	19	37	24.5	70	9	20.0	21	0	3	66	15.5	156	D		
D'	6	10.9		10	12.2			16	11.7		23	17.4		6	8.2		25	16.6		10	22.2		0	0	64	15.1		D'	
AD	5	9.1	29.1	4	4.9	25.6	9	6.6	27.0	10	7.6	32.6	3	4.1	26.0	8	5.3	46.4	2	4.4	6.7	3	12.5	26	6.1	36.7	AD		
E	4	7.3	11	5	6.1	13	9	6.6	24	1	0.8	18	2	2.7	14	3	2.0	14	1	2.2	3	1	4.2	5	8	1.9	54	E	
E'	7	12.7		5	6.1			12	8.8		9	6.8		6	8.2		8	5.3		1	2.2	3	3	12.5	27	6.4		E'	
AE	0	0	20.0	3	3.7	15.9	3	2.2	17.5	8	6.1	13.6	6	8.2	19.2	3	2.0	9.3	1	2.2	6.7	1	4.2	20.8	19	4.5	12.7	AE	
F	0	0	0	2	2.4	2	2	1.5	1.5	1	0.8	0.8	1	1.3	1	3	2.0	2.0	3	1	2.2	1	2	8.3	2	8	1.9	8	F
(N)	55		82				137		132		73		151		45		24		425										(N)

経験 類型	無 所 属		文 化 部				無・文 計		運 動 部 (1)		運 動 部 (2)		運 動 部 (3)		運 動 部 (4)		運 動 部 (5)		運 動 部 計		経験 類型
			頻 数	%	頻 数	%			頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	
	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	
典 型	15	27.3	22	26.8	37		37	27.0	35	26.5	18	24.7	56	37.1	16	35.6	6	25.0	131	30.8	典 型
準 型	24	43.6	32	39.0	56		56	40.9	51	38.6	28	38.4	55	36.4	18	40.0	6	25.0	158	37.2	準 型
亜 型	16	29.1	26	31.7	42		42	30.7	45	34.1	26	35.6	37	24.5	10	22.2	10	41.7	128	30.1	亜 型
その他	0	0	2	2.4	2		2	1.5	1	0.8	1	1.3	3	2.0	1	2.2	2	8.3	8	1.9	その他
(N)	55		82				137		132		73		151		45		24		425		(N)

性格と身体活動への興味に関する研究

第十表 調査数（学科，学年，経験グループ別）

		無所属	文化部	無・文計	運 動 部					運動部 計	合計
					(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		
1 年	機械科	38	28	66	49	22	46	26	9	152	218
	化学科	5	16	21	24	10	31	6	3	74	95
	化工科	2	8	10	14	9	15	8	1	47	57
	電気科	3	5	8	13	12	22	2	4	53	61
	電子科	2	16	18	9	7	18	0	2	36	54
	情報科	1	5	6	5	7	10	0	2	24	30
	建築科	4	4	8	18	6	9	3	3	39	47
	小 計	55	82	137	132	73	151	45	24	425	562
2 年		8	18	26	16	11	22	18	8	75	101
3 年		3	4	7	3	1	9	5	0	18	25
4 年		2	2	4	2	1	0	3	0	6	10
小 計		13	24	37	21	13	31	26	8	99	136
合 計		68	106	174	153	86	182	71	32	525	698

第十一表 Y-G「上6尺度」と「下6尺度」の差と平均（経験グループ別）

グループ	無所属	文化部	無文計	運 動 部					運動部 計	合計 (1年)
				(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		
得点差	7.28	7.90	7.66	17.33	10.68	25.80	26.11	-0.49	19.12	16.32
平 均	1.21	1.32	1.28	2.89	1.78	4.30	4.35	-0.08	3.19	2.72

	機械科(系)	化学科	化工科	化学系	電気科	電子科	情報科	電気系	建築科(系)	辻岡平均
得点差	17.90	21.53	21.46	21.21	19.87	2.89	5.47	10.57	10.25	2.24
平 均	2.98	3.59	3.58	3.54	3.31	0.48	0.91	1.76	1.71	0.37

第十二表 Y-G因子グループ別得点平均

	無所属	文化部	無文計	運 動 部					運動部 計	合 計 (1年)
				(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		
D,C,I,N	9.30	9.15	9.21	8.07	9.14	7.69	8.32	▲10.25	8.27	8.50
O・Co・Ag	8.45	8.71	8.61	8.53	8.85	8.50	8.50	8.29	8.56	8.57
Ag・G	▲9.67	▲10.03	▲9.89	▲10.63	▲10.80	11.84	12.42	▲9.13	11.19	10.87
G・R	10.51	▲10.34	10.41	11.12	11.02	12.27	13.67	▲9.80	11.70	11.40
R・T	11.15	9.94	10.43	10.88	10.37	11.53	11.45	10.07	11.04	10.90
A・S	▲9.15	10.34	9.86	10.94	10.38	11.89	13.08	▲8.81	11.29	10.94

	機械科(系)	化学科	化工科	化学系	電気科	電子科	情報科	電気系	建築科(系)	辻岡平均
D,C,I,N	8.29	8.12	8.06	8.17	8.07	9.72	9.23	8.92	9.46	9.98
O・Co・Ag	8.50	8.58	8.24	8.45	8.75	8.46	▲9.32	8.76	8.65	9.11
Ag・G	10.91	11.34	11.21	11.29	11.47	▲9.66	▲10.47	▲10.59	▲10.25	10.86
G・R	11.54	11.66	12.00	11.78	12.07	▲9.82	10.44	10.90	11.02	10.41
R・T	11.14	11.30	11.16	11.25	10.97	9.68	9.52	10.19	10.87	9.06
A・S	10.95	11.65	11.57	11.62	11.35	▲9.30	9.82	10.27	10.74	9.38

註) 表中の▲印は辻岡平均よりE型寄りの因子グループを示す

鎌 田 英 爾

第十三表 (A)興味得点の全種目平均(本学)

	無所属	文化部	無文計	運 動 部					運動部 計	合 計 (1年)
				(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		
$\bar{x}$	4.57	4.42	4.48	4.73	4.67	4.76	5.01	4.66	4.75	4.69
SD	0.55	0.58	0.57	0.56	0.43	0.50	0.50	0.66	0.52	0.55
N	55	82	137	132	73	151	45	24	425	562

(B)興味得点平均(関東地方大学男子2年, 西田明子)

	無所属	文化部	無文計	運動部	合 計
$\bar{x}$	4.66	4.39	4.60	4.95	4.82
SD	0.69	0.55	—	—	0.63
N	79	25	104	321	425

第十四表 辻岡平均と本学グループの検定

グループ 尺度	無所属	文化部	無・文計	運 動 部					運動部 計	合 計 (1年)
				(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		
D	xx	xxx	xxx	xxx	xx	xxx	xxx		xxx	xxx
C		xxx	xxx	xxx	x	xxx			xxx	xxx
I				xxx⊖		xxx	x		xxx	xxx
N				x		xxx			xxx	xxx
O						xxx			xxx	
Co	x		xx	x		xxx	xxx		xxx	xxx
Ag		x ⊖	xx ⊖			x				
G	x ⊖		x ⊖			xxx	xxx		xx	
R	x		xx	xxx	x	xxx	xxx		xxx	xxx
T	xxx	x	xxx	xxx	xx	xxx			xxx	xxx
A						xxx	xxx		xxx	xxx
S			x	xxx	xx	xxx	xxx		xxx	xxx

xxx—0.5% xx—1.0% x—5% ⊖印はE型寄りに有意差

第十五表 本学合計(1年)と各グループの検定

グループ 尺度	無所属	文化部	無・文計	運 動 部					運動部 計
				(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	
D						x		x ⊖	
C									
I			x ⊖			x			
N		x ⊖	xx ⊖			xx			
O			x ⊖			xxx			
Co							x		
Ag			x			xxx			
G	xx ⊖	x ⊖	xxx ⊖			xx	xxx	x ⊖	x
R		x ⊖				x	xxx		
T									
A	xxx⊖		x ⊖			x	xxx	x ⊖	
S	x ⊖	x ⊖	xxx⊖			x	xxx	x ⊖	

xxx—0.5% xx—1.0% x—5% ⊖印はE型寄りに有意差

第十六表 本学グループ間相互の検定

	無と文	無と運	文と運	無・文計 と 運		無と文	無と運	文と運	無・文計 と 運
D					Ag				x
C					G		xxx	xx	xxx
I			x	x	R			x	x
N			xx	xxx	T	x		x	
O				x	A	xx	xxx		x
Co					S		x	x	xxx

xxx—0.5% xx—1.0% x—5%

性格と身体活動への興味に関する研究

第十七表 一般的身体活動に対する興味得点

学科 興味 得点	機 械 科 (系)	化学科	化工科	化学系	電気科	電子科	情報科	電気系	建 築 科 (系)	合 計 (1年)
7	(N) 52 (%) 23.9	18 18.9	14 24.6	32 21.1	15 24.6	7 13.0	4 13.3	26 17.9	14 29.8	124 22.1
6	(N) 97 (%) 44.5	45 47.4	23 40.4	68 44.7	28 45.9	19 35.2	8 60.0	65 44.8	23 48.9	253 45.0
5	(N) 55 (%) 25.2	22 23.2	11 19.3	33 21.7	14 23.0	19 35.2	4 13.3	37 25.5	8 17.0	133 23.7
4	(N) 14 (%) 6.4	6 6.3	7 12.3	13 8.6	4 6.6	5 9.3	2 6.7	11 7.6	0 0	38 6.8
3	(N) 0 (%) 0	3 3.2	1 1.8	4 2.6	0 0	2 3.7	1 3.3	3 2.1	2 4.3	9 1.6
2	(N) 0 (%) 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 1.9	1 3.3	2 1.4	0 0	2 0.4
1	(N) 0 (%) 0	1 1.1	1 1.8	2 1.3	0 0	1 1.9	0 0	1 0.7	0 0	3 0.5
合 計	N 218 x̄ 5.86 S D 0.85	95 5.68 1.06	57 5.67 1.20	152 5.68 1.11	61 5.89 0.86	54 5.31 1.23	30 5.63 1.13	145 5.62 1.09	47 6.00 0.93	562 5.76 1.00

第十八表 一般的身体活動に対する興味得点

グループ 興味 得点		無所属	文化部	無・文 計	運 動 部					運動部 計	2 年	3 年	4 年	2, 3, 4 年 計
					(1)	(2)	(3)	(4)	(5)					
7	(N) (%)	4 7.3	6 7.3	10 7.3	32 24.2	8 11.0	48 31.8	22 48.9	4 16.6	114 26.8	19 18.8	8 32.0	2 20.0	29 21.3
6	(N) (%)	30 54.5	27 32.9	57 41.6	56 42.4	36 49.3	73 48.3	18 40.0	13 54.2	196 46.1	50 49.5	12 48.0	4 40.0	66 48.5
5	(N) (%)	12 21.8	28 34.1	40 29.2	35 26.5	27 37.0	23 15.2	4 8.9	5 20.8	94 22.1	19 18.8	4 16.0	1 10.0	24 17.6
4	(N) (%)	8 14.5	12 14.6	20 14.6	9 6.8	0 0	7 4.6	1 2.2	0 0	17 4.0	6 5.9	1 4.0	0 0	7 5.1
3	(N) (%)	1 1.8	5 6.1	6 4.4	0 0	2 2.7	0 0	0 0	1 4.2	3 0.7	7 6.9	0 0	2 20.0	9 6.6
2	(N) (%)	0 0	2 2.4	2 1.5	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 10.0	1 0.7
1	(N) (%)	0 0	2 2.4	2 1.5	0 0	0 0	0 0	0 0	1 4.2	1 0.2	0 0	0 0	0 0	0 0
合 計	N	55	82	137	132	73	151	45	24	425	101	25	10	136
	$\bar{x}$	5.51	5.04	5.23	5.84	5.66	6.07	6.36	5.63	5.93	5.67	6.08	5.10	5.71
	S D	0.90	1.28	1.16	0.87	0.79	0.81	0.74	1.31	0.88	1.07	0.81	1.79	1.11

## 鎌 田 英 爾

第十九表 種目別経験率と興味得点

順位	種 目	1 年			2 年 以 上			2 年
		経験率 (%)	興 味 得 点		経験率 (%)	興 味 得 点		以上の 順 位
			経験有	経験無		経験有	経験無	
1	バレーボール	97.1	5.42	4.63	92.6	5.19	5.00	5
2	バスケットボール	97.0	5.23	4.18	95.6	5.14	5.17	2
3	サ ッ カ ー	96.6	5.47	4.47	94.1	5.54	4.75	3
4	水 泳	95.2	4.78	3.74	97.1	5.36	4.50	1
5	ソフトボール	93.1	5.69	4.23	94.1	5.73	4.75	3
6	な わ と び	90.6	4.37	3.75	85.3	4.19	3.55	9
7	陸 上 競 技	89.3	3.96	3.47	87.5	4.38	3.41	8
8	マ ラ ソ ン (ジョギング)	85.2	3.93	3.39	79.4	4.21	3.75	13
9	卓 球	84.2	5.46	4.31	89.7	5.49	4.64	7
10	ボ ー リ ン グ	83.3	5.74	4.41	91.2	5.70	4.75	6
11	柔 道	79.0	4.38	3.84	80.1	4.29	3.93	12
12	バドミントン	77.8	5.73	5.01	83.8	5.68	5.00	10
13	野 球 (軟・硬)	75.6	5.80	4.80	78.7	5.98	4.83	14
14	ハ イ キ ン グ	74.4	5.43	4.91	69.9	5.65	4.39	16
15	アイス・スケート	72.8	5.53	4.54	82.4	5.55	4.67	11
16	キ ャ ン プ	69.9	5.92	5.06	75.0	5.99	5.00	15
17	体 操	68.7	4.01	3.54	65.4	4.04	3.83	18
18	ローラースケート	62.6	5.42	4.40	59.6	5.42	4.64	20
19	ハンドボール	62.3	4.90	4.08	57.4	4.92	4.10	21
20	ダ ン ス	61.4	4.69	3.71	52.2	4.96	3.46	22
21	テニス (硬・軟)	55.3	5.70	4.84	68.4	5.67	4.77	17
22	剣 道	55.0	4.51	4.08	61.0	4.47	4.04	19
23	オ リ エ ン グ テ ー リ ン グ	44.8	5.23	4.52	39.0	5.08	4.46	26
24	ラ グ ビ ー	43.8	5.06	4.37	42.6	5.29	4.63	24
25	ス キ ー	42.2	5.91	4.92	50.7	6.13	5.07	23

性格と身体活動への興味に関する研究

25	登 山	42.2	5.41	4.35	40.4	5.42	4.58	25
27	フ ィ ー ル ド アスレティック	34.0	5.17	4.65	30.9	5.40	4.50	28
28	ト ラ ン ポ リ ン	30.6	5.07	4.71	29.4	5.20	4.59	29
29	相 撲	24.9	4.67	4.14	33.8	4.63	4.10	27
30	ボ ー ト	17.3	5.40	4.52	17.6	5.42	4.72	30
31	ゴ ル フ	14.8	5.43	4.32	17.6	5.46	4.21	30
32	ア メ リ カ ン フットボール	6.8	5.76	4.56	3.7	6.20	4.73	39
33	ア ー チ ョ リ ー	6.8	5.63	4.48	8.1	5.73	4.42	32
34	空 手	5.7	6.06	4.33	5.9	6.00	4.41	35
35	重 量 挙	4.3	4.33	3.47	3.7	5.20	3.52	39
36	スキングダイビング	3.4	6.58	4.57	4.4	6.50	4.80	37
37	サ ー フ ィ ン	3.2	6.00	4.69	8.1	6.18	4.80	32
38	拳 法	3.0	6.18	4.27	5.1	5.43	4.33	36
38	アイス・ホッケー	3.0	6.12	4.77	6.6	5.89	5.00	34
40	ボ ク シ ン グ	2.8	5.75	4.54	3.7	5.00	4.76	39
40	射 撃	2.8	5.94	5.13	4.4	5.50	5.03	37
42	乗 馬	2.3	5.77	4.52	2.2	5.67	4.56	45
42	弓 道	2.3	5.85	4.35	1.5	5.50	4.28	46
44	ヨ ッ ト	2.0	6.00	4.72	1.5	6.00	5.20	46
45	レ ス リ ン グ	1.6	3.89	3.87	2.9	5.75	3.97	42
46	ボ デ ィ ビ ル	1.2	5.29	3.47	0	0	3.40	51
46	合 気 道	1.2	5.14	4.13	2.9	5.00	4.15	42
48	フ ィ ー ル ド ・ ホ ッ ケ ー	0.9	5.60	4.17	2.9	6.00	4.11	42
49	フ ェ ン シ ン グ	0.7	4.25	3.86	0.7	6.00	3.84	50
49	水 上 ス キ ー	0.7	5.25	4.39	1.5	5.00	4.63	46
51	グ ラ イ ダ ー	0.4	6.00	4.95	1.5	5.00	4.94	46

第二十表 Y-G性格類型別興味得点 (全種目平均)

フル 型	無 所 属	文 化 部		無・文・計		運 動 部						運 動 部 計		合 計 ( 1 年 )		類 型							
						(1)		(2)		(3)		(4)		(5)									
		度 数	小計 平均	度 数	得 点	度 数	得 点	度 数	得 点	度 数	得 点	度 数	得 点	度 数	得 点								
A	2 4.51	17	2 4.95	20	4 4.73	37	8 4.65	26	0	0	18	10 4.86	32	1 4.51	9	0	0	A					
A'	9 4.51		7 4.19		16 4.37		4 4.85		6 4.83		9 4.54		9 4.54	4 4.86		1 4.73		A'					
A''	6 4.50	4.51	11 4.25	4.30	17 4.34	4.40	14 4.70	4.71	12 4.73	4.77	13 4.60	4.66	4 4.66	5.04	3 4.60	3 4.60		A''					
B	2 4.72	6	4 4.36	10	6 4.48	16	3 5.16	20	3 4.84	10	2 4.67	19	3 4.91	8	2 4.75	3	13 4.89	60	B				
B'	2 4.35		6 4.38		8 4.37		11 4.92		5 4.53		8 4.68		2 5.11		1 4.29		28 4.78	36	B'				
AB	2 4.13	4.40	0	4.37	2 4.13	4.38	6 5.08	5.00	2 4.67	4.65	9 5.06	4.86	2 4.55	4.89	0	4.59	19 4.97	4.86	21	AB			
C	2 4.23	5	4 4.49	16	6 4.41	21	13 4.34	24	3 4.62	11	4 4.42	13	2 4.43	3	3 4.67	7	25 4.43	58	31	C			
C'	0	0	4 4.21		4 4.21		4 4.53		5 4.53		5 4.87		0	0	1 4.49		15 4.64	19	4.55	79	C'		
AC	3 4.66	4.48	8 4.33	4.34	11 4.42	4.37	7 4.61	4.45	3 4.53	4.55	4 4.28	4.55	1 5.00	4.62	3 4.95		18 4.60	4.54	29	4.53	49	AC	
D	5 4.42	16	7 5.00	21	12 4.76	37	0 5.12	43	10 4.54	19	37 4.89	70	9 5.25	21	0	0	66 4.92	156	78	4.90	193	D	
D'	6 4.69		10 4.74		16 4.72		23 4.90		6 4.86		25 4.81		10 5.13		0	0	64 4.90	80	4.86		193	D'	
AD	5 5.20	4.77	4 4.33	4.75	9 4.81	4.76	10 4.66	4.89	3 4.77	4.68	8 4.54	4.82	2 4.84	5.15	3 4.69		26 4.65	4.87	35	4.69	4.85	AD	
E	4 4.33	11	5 4.18	13	9 4.25	44	1 4.00	18	2 4.88	14	3 4.61	14	1 4.14	3	1 2.55	5	8 4.29	54	17	4.27	78	E	
E'	7 4.54		5 4.21		12 4.40		9 4.20		6 4.63		8 4.54		1 4.92		3 4.96		27 4.51	39	4.48		78	E'	
AE	0	0	3 4.15	4.18	3 4.15	4.32	8 4.71	4.42	6 4.54	4.63	3 4.52	4.55	1 4.06	4.37	1 5.25		19 4.62	4.51	22	4.56	4.45	AE	
F	0	0	2 4.36	2	2 4.36	4.36	1 4.67	4.67	1 5.31	5.31	3 5.29	5.29	1 5.41	5.41	2 4.62		8 5.06	8	10	4.92	4.92	10	F

／	度 数	平 均	度 数	平 均	度 数	平 均	度 数	平 均	度 数	平 均	度 数	平 均	度 数	平 均	度 数	平 均	度 数	平 均	／		
典型	15	4.42	22	4.60	37	4.53	35	4.69	18	4.64	56	4.83	16	4.97	6	4.34	131	4.76	168	4.71	典型
準型	24	4.55	32	4.40	56	4.46	51	4.74	28	4.69	55	4.71	18	5.05	6	4.73	158	4.76	214	4.68	準型
亜型	16	4.70	26	4.28	42	4.44	45	4.73	26	4.66	37	4.66	10	4.93	10	4.80	128	4.72	170	4.65	亜型
その他	0	0	2	4.36	2	4.36	1	4.67	1	5.31	3	5.29	1	5.41	2	4.62	8	5.06	10	4.92	その他
(N)	55		82		137		132		73		151		45		24		425		562		(N)
平均	4.57		4.42		4.48		4.73		4.67		4.76		5.01		4.66		4.75		4.69		平均



第二十一表 興味得点の上位群，下位群と運動部経験者群のY-G尺度および検定

グループ		尺度	D	C	I	N	O	Co	Ag	G	R	T	A	S	興味得点 の平均
下 位 群 (N = 35)	群	$\bar{x}$	11.66	9.66	10.03	12.11	8.89	8.83	9.11	7.83	9.97	9.26	7.06	8.86	3.78
		SD	5.23	4.55	5.07	4.71	4.21	3.68	4.18	4.60	4.36	3.42	4.73	4.87	0.35
上 位 群 (N = 34)	群	$\bar{x}$	9.38	8.88	8.24	9.97	9.21	7.26	12.47	11.50	12.44	8.65	9.91	13.18	5.16
		SD	5.74	5.03	5.03	5.21	3.86	2.85	4.16	4.00	3.75	4.27	5.33	5.05	0.33
運 動 部 (4) (N = 45)	SD	$\bar{x}$	8.38	9.73	6.89	8.29	8.27	6.22	11.00	13.84	13.49	9.40	11.56	14.60	5.01
		SD	5.47	4.75	5.60	4.85	4.22	3.46	4.09	4.04	4.31	5.15	5.88	4.50	0.50
運 動 部 (3) (N = 151)	SD	$\bar{x}$	7.72	8.03	7.03	7.97	6.83	7.12	11.56	12.11	12.42	10.64	10.39	13.38	4.76
		SD	5.21	4.31	4.97	5.02	3.84	3.96	3.95	4.36	4.08	4.20	4.47	4.51	0.50
上位群と下位群								X	xxx	xxx	x		x	xxx	xxx
運動部(4)と上位群									xx	xx					xxx
" (3)と "						x	xx		x	xxx	xxx	x	xxx	xxx	xxx
" (4)と下位群					xx	xxx		xx		xxx	xx	x	xxx	xxx	xxx
" (3)と "			xxx	x	xxx	xxx	xx	x	xxx	xxx	xx		xxx	xxx	xxx

xxx-0.5% xx-1% x-5%

第二十二表 Y-G尺度，今回資料と前回 (42年) 資料との差と検定

グループ		尺度	D	C	I	N	O	Co	Ag	G	R	T	A	S	(N) 今回 前回
無・文 計	差 $t$		-0.28	-0.42	0.49	0.97 x	0.69	-0.61	-0.93 x	-1.62 xxx	0.97 x	1.08 xxx	-0.57	-0.13	137 550
運 動 部 計	差 $t$		-0.95 xxx	-0.65 x	0.19	0.27	-0.24	-0.19	-0.50 x	-0.81 xxx	1.15 xxx	1.24 xxx	-0.03	0.80 xxx	425 839
合 計 (1年)	差 $t$		-0.83 xxx	-0.59 xx	0.14	0.33*	0	-0.37 x	-0.56 xxx	-0.85 xxx	1.21 xxx	1.25 xxx	0.08	0.69 xx	562 1389

xxx-0.5% xx-1% x-5% ⊖印は前回の資料よりE型寄りの有意差

第二十三表 本学と西田間のグループ別検定

グループ		D	C	I	N	O	Co	Ag	G	R	T	A	S	(N)
本学下位群と西田下位群					⊖		⊖	⊖		x	xxx			35 / 26
								x	⊖					34 / 26
本学上位群と西田上位群				⊖	⊖	⊖	⊖	⊖						45 / 90
		x		⊖			xxx	⊖	x				x	150 / 90
本学運動部(4)と西田運動部		xxx	xx		xxx	xxx	xxx	⊖			xxx			
		xxx-0.5%	xx-1%		xxx	xxx	xxx	⊖						

xxx-0.5% xx-1% x-5% ⊖印は西田に比べてE型寄りの尺度

鎌 田 英 爾

第二十四表 2, 3, 4, 年の Y-G 性格類型別興味得点 (全種目平均)

	2, 3, 4, 年 無・文 計			2, 3, 4, 年 運 動 部 計			2, 3, 4, 年 合 計		
	度 数	得 点	小 計 平 均	度 数	得 点	小 計 平 均	度 数	得 点	小 計 平 均
A	2	4.33	9	0	0	8	2	4.33	17
A'	2	4.58	4.66	2	5.22	4.73	4	4.90	4.69
A''	5	4.84		6	4.57		11	4.69	
B	2	3.85	5	7	5.14	19	9	4.85	24
B'	2	4.99	4.44	7	5.05	5.08	9	5.04	4.95
AB	1	4.53		5	5.02		6	4.94	
C	3	4.67	8	6	4.55	12	9	4.59	20
C'	2	4.45	4.61	2	4.30	4.55	4	4.38	4.57
AC	3	4.65		4	4.67		7	4.66	
D	0	0	5	16	4.88	50	16	4.88	55
D'	5	4.67	4.67	27	4.99	4.91	32	4.94	4.89
AD	0	0		7	4.68		7	4.68	
E	3	4.17	7	1	4.00	10	4	4.13	17
E'	3	4.87	4.61	7	4.14	4.32	10	4.36	4.44
AE	1	5.14		2	5.09		3	5.11	
F	3	4.88	3	0	0	0	3	4.88	3
			4.88			0			4.88

	度 数	平 均	度 数	平 均	度 数	平 均
典 型	10	4.29	30	4.84	40	4.70
準 型	14	4.64	45	4.85	59	4.80
並 型	10	4.78	24	4.76	34	4.77
そ の 他	3	4.88	0	0	3	4.88
N	37		99		136	
平 均	4.60		4.82		4.76	

第二十五表 本学各科と近畿大各科、および本学計(今回, 前回)と近畿大理工学部の検定

本 学 と 近 畿 大 学	(N)	D	C	I	N	O	Co	Ag	G	R	T	A	S
機 械 科 と 機 械 科	218 147		xxx	xxx			xxx	⊖	⊖	×	xxx	×	xxx
化 学 科 と 化 学 部	95 37	×	xxx			xxx	×	⊖	⊖	×	xxx		xx
電 気 科 と 電 気 科	61 111	xxx	xxx	xxx	xx		xxx	⊖	×	xx	xxx	xx	xxx
建 築 科 と 土 木 科	47 65				⊖	⊖	xxx	⊖	⊖				×
合計(今回)と 理工学部	562 175	xx	xxx	xxx			xxx	⊖	⊖	xxx	xxx		xxx
合計(前回)と 理工学部	1389 175	xx	xxx	xx			xxx	⊖	×	⊖		×	xxx

xxx-0.5%, xx-1%, x-5%, ⊖印は本学の方がE型寄りの尺度

第二十六表 本学と花田註16) のグループ間検定

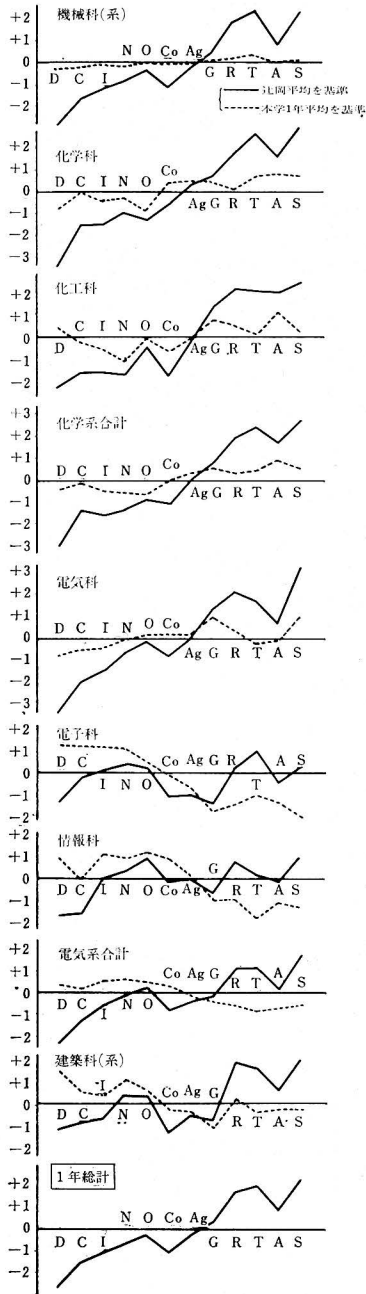
本 学 と 花 田	(N)	D	C	I	N	O	Ag	G	R	T	A	S
無 所 属 ・ 文 化 部 計	137 39	xxx				⊖	×	⊖	⊖	xx		
運 動 部 合 計	425 441	xxx	xxx	×	xxx	xxx	⊖	xxx		xxx		xxx
運動部(1) (中 学)	132 51	xxx	xxx	xxx	×	⊖	×	⊖		xxx	⊖	×
" (3) (中学・高校)	151 130	xxx	xxx	xx		xxx	xxx	⊖	×			xx
" (4)(高・大・中・高・大)	45 176	xxx	×			xxx	⊖		xx			xxx
" (5) (高 校)	24 44	⊖		⊖	⊖	⊖		⊖	×	⊖	⊖	⊖

xxx-0.5% xx-1% x-5% ⊖印は本学の方がE型寄りの尺度

性格と身体活動への興味に関する研究

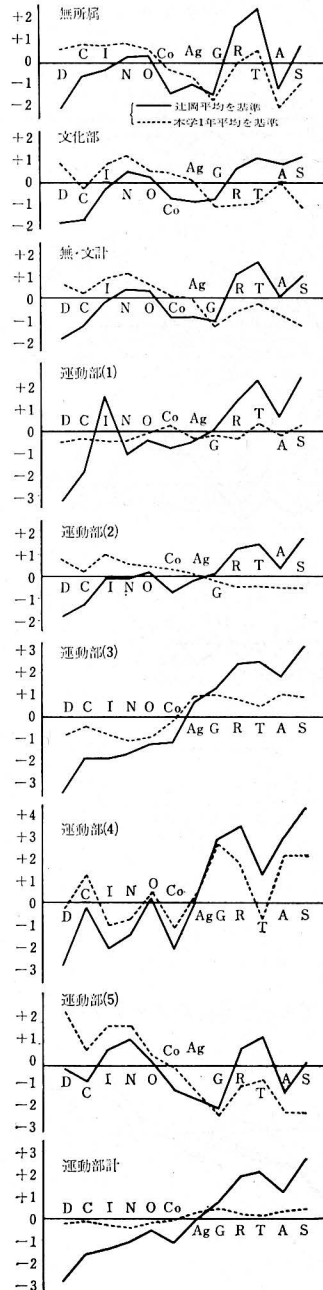
第1図

学科別プロフィール



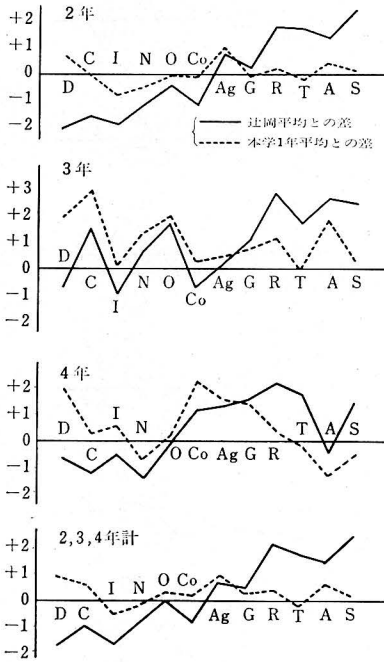
第2図

経験グループ別プロフィール



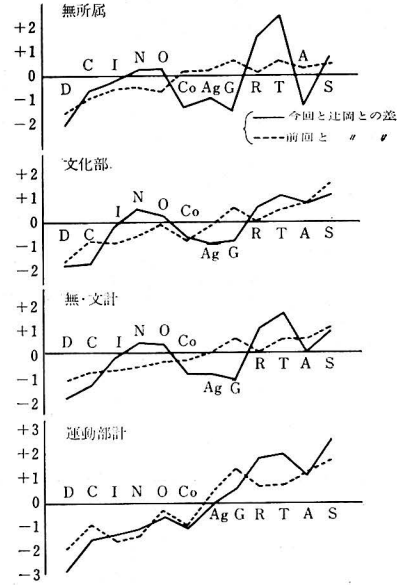
第3図

学年別プロフィール



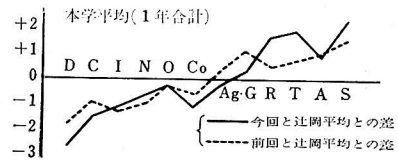
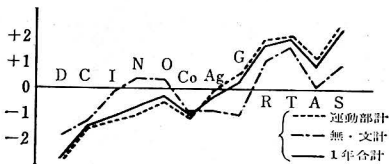
第5図

辻岡平均と前回、今回との比較  
プロフィール



第4図

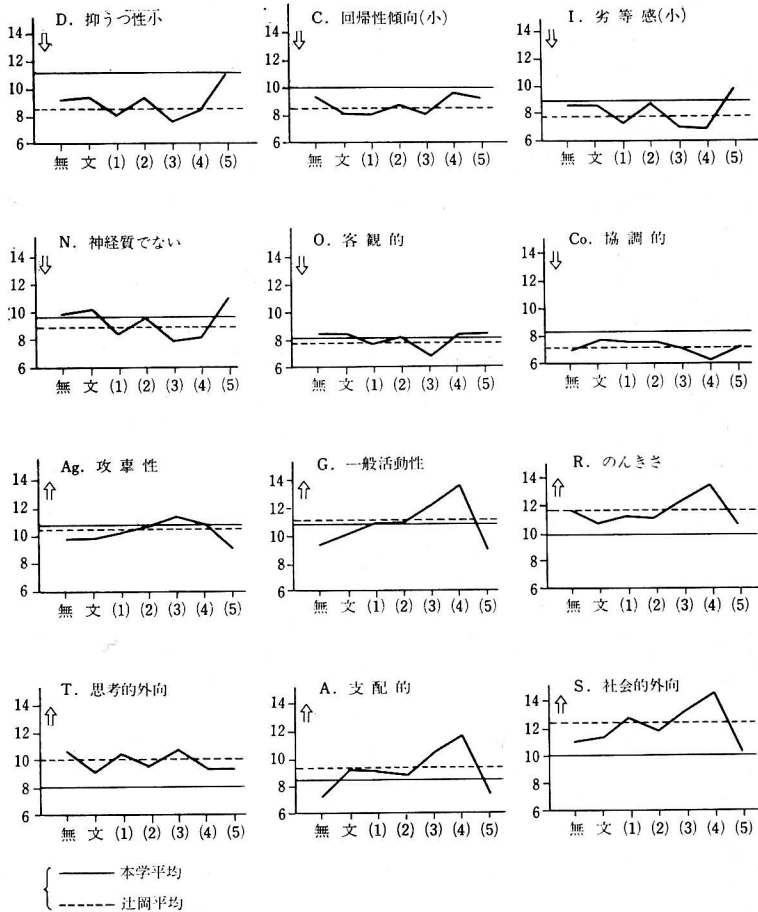
経験グループ別比較プロフィール



性格と身体活動への興味に関する研究

第6図

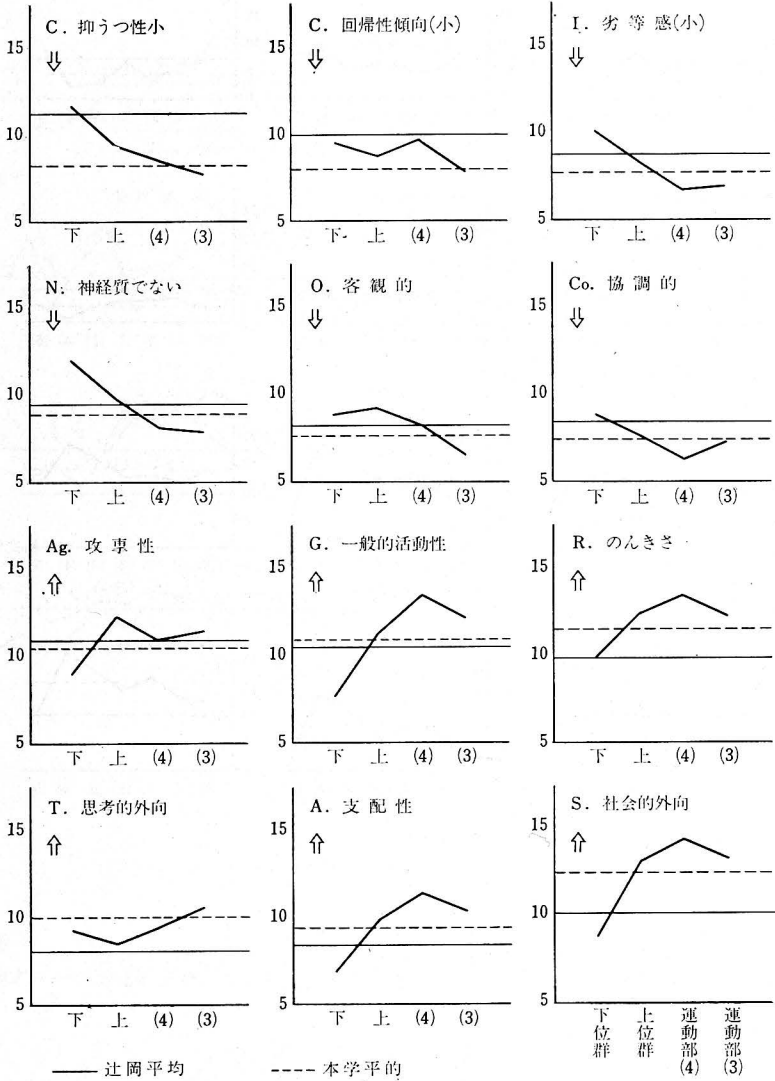
経験グループ別、Y-G反応別比較（矢印はD型寄りの方向を示す）



第7図

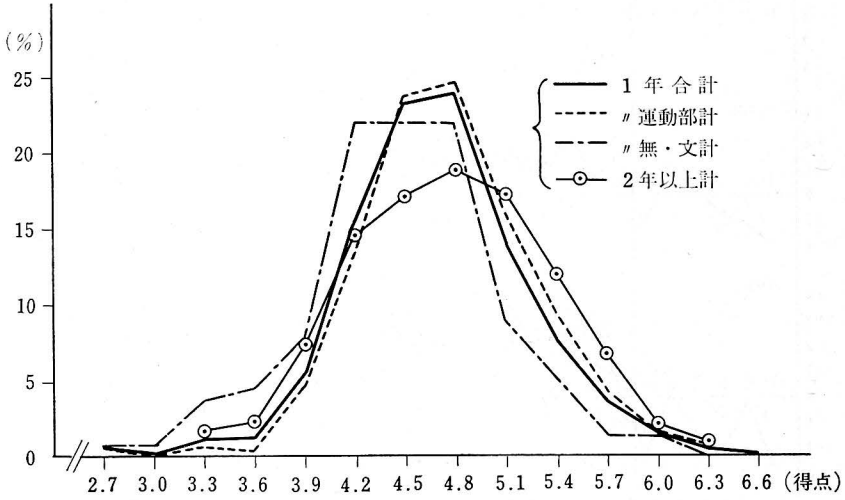
興味得点の上、下位群と運動経験者のY-G反応別比較

(矢印はD型寄りの方向を示す)



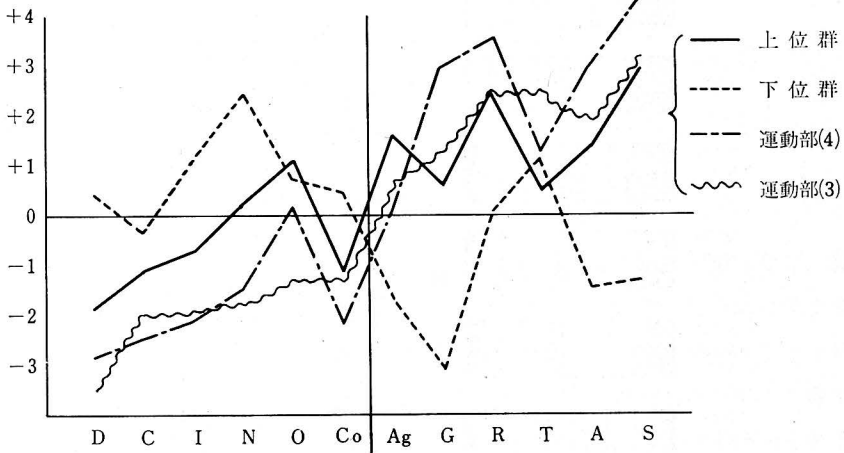
第8図

興味得点の分布

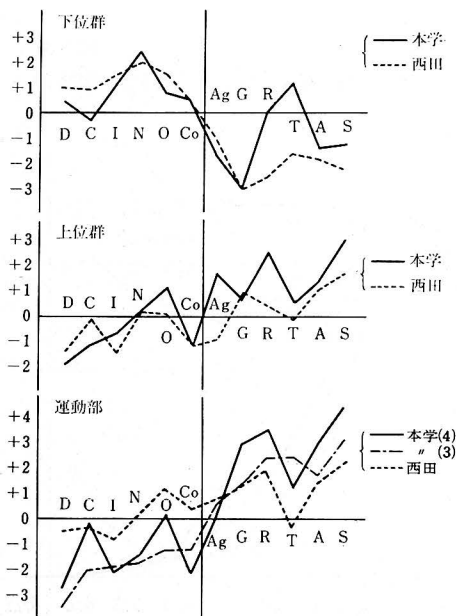


第9図

運動未経験〔上、下位群〕と運動経験〔(4),(3)〕の辻岡平均との差



第10図 本学と西田とのY-G反応別比較（辻岡平均を基準）



第11図 Y-G類型の出現率(%)

